

商 況

販 賣 旬 報 第 244 號 昭 和 8 年 10 月 11 日

製 鐵 所 販 賣 部

此の一文は野田技監が「工政」の 8 年 9 日號に執筆せられたるものにて、現下の鐵鋼界にとり最も参考となるものと考へ、技監の御承諾を得て掲記することゝした。

我國鐵鋼界の現況及其前途

製鐵所技監工學博士 野 田 鶴 雄

目 次

鋼材需要今日迄の狀況

本邦鋼材需要高表(輸入超過、生産、需要)

近代的製鋼事業上の事蹟

昭和 4 年(我國從來の鋼材需要の最高)高級、普通鋼材の需要高表

昭和 4 年普通鋼材需要高内譯表

昭和 8 年上半期(1—6 月)高級、普通兩鋼材の需用高表

昭和 7 年中及昭和 3—7 年 5 ケ年間平均製鐵所鋼材地方別發送高割合

(1) 鋼材需要今日迄の狀況

我國に於ける普通、高級兩種鋼材の需要統計の少々正確なる記録は、去る明治 29 年以來の事であつて、夫を圖表に顯はしたものは附圖第 1 表の通りである。抑々我國に於て鐵鋼を多量に纏めて使用し始めたのは、明治 5 年明治大帝御親臨の下に開通式を擧げられた東京横濱間の鐵道工事用の諸材料であつて、日清戦争の済んだ翌明治 29 年に於ても、未だ鋼材の需要は 21 萬 1,000 吨しかなくつたのである。しかも其全部とも云ふべき 21 萬吨を輸入して居たのである。八幡に今の製鐵所が建設されて

始めて鋼材が製造されたのは 明治 34 年であるが、其年の我國の鋼材生産高僅かに 6,000 吨に過ぎず、同年ノ輸入は當時甚しき不況で、明治 29 年より少かつたが、尙 18 萬 8,000 吨に及んだのである。日露戦争中の明治 38 年には、我國の生産は 7 萬 1,000 吨に増したが、輸入は其 5 倍以上の 57 萬吨を超へて居た。世界大戰勃發の前年大正 2 年には我國の生産は 25 萬 6,000 吨に上つても輸入は尙其 2 倍以上の 55 萬吨を要して居た。處が

歐洲大戰 の爲其輸入が大正 3 年には 40 萬 4,000 吨に、同 4 年には 23 萬 5,000 吨に減じたのと、一方には我國の各種工業品輸出の増加によつて、國內一般に景氣がよくなつたので、基礎工業品たる銑鐵鋼材共に其需要が激増して、製鐵鋼設備の急設となり、世界大戰休止の大正 8 年には鋼材の輸入も 67 萬吨を突破したが、我國の生産も戦前の 2 倍以上たる 55 萬 3,000 吨に上つたのである。爾來我國の鋼材生産は昭和 4 年迄

増加する一方 で、其年には 203 萬 4,000 吨に上り、昭和 5、6 年の世界不況で昭和 6 年は 165 萬吨迄下つたが、昭和 7 年下半期の好景氣は、又盛返して昨 7 年は 218 萬吨迄に増進したのである。他方

輸入 の方は歐洲大戰末から年毎に多くなり少くなりして、大正 12 年の關東大震火災での需要増加と、輸入税免除との結果、大正 13 年には鋼材輸入は今日迄の最高 115 萬吨に達したが、翌 14 年は前の年の思惑輸入の持越も少からず、50 萬吨にドカ落ちて

しまつた。昭和元年には再び 90 萬吨に復舊はしたが、爾來我國生産の増加によつて輸入は減ずる一方になり、昭和 7 年には遂に輸入から輸出を差引いたものは僅かに 10 萬 2,000 吨迄に減じてしまつたのである。之迄述べ來つた處を見ると、我國の鋼材生産は僅に 200 萬吨以上に及び、輸入から輸出を引いたものは僅々 10 萬餘吨に引下つたのであるから、誠に結構なようであるが、過去の多かりし需要の事實と將來の豫想とは、決して樂觀を許さないどころか今にして充分なる之が

對策を講ずるに非ざれば 近き將來は申すに及ばず、今昭和 8 年に於ても、將に少からざる自給不足即ち輸入の増加に悩まされんとする現状にあるのである。我國の今日迄の

鋼材需要 の最高は 4 年前の昭和 4 年であつて、今次に特に此年の統計に就て供給の詳細を掲げて我國現在の狀況を知ることになしよう。

昭和 4 年高級、普通兩鋼材の需要(吨)

全 需 要 額	2,805,663
内 譯	
本邦生産額	2,033,880
輸入より輸出を差引けるもの	771,783
此年に於て輸入せるもの	
製品たる鋼材	784,965
鋼材製造用半製品塊及錠	168,624
小 計	953,589
飢鐵、印度、滿洲其他より	654,655
合 金 鐵	3,208
小 計	657,263
合 計	1,610,852
外に製鋼用鐵として屑鋼(スクラップ)	487,947

以上の屑鋼を除く輸入品全部約 161 萬吨の價額は、關税を含まざるもの實に 1 億 4,400 萬圓以上に及び、其内の一小部分たる運賃は我國船會社の收入となつたものもあるも、大部分は外國製鐵會社に支拂はれたものである。

以上の昭和 4 年の總需要額約 280 萬吨の内

高級鋼材 に屬するもの約 10 萬吨であるが、高級鋼材の製造は、我國では官業では吳海軍工廠を最大とし、民業では室蘭の日本製鋼所を第一として去大正 11 年の軍縮以來、今日の高級鋼材需要増加の現状に於ても、まだまだ數量的には供給に餘裕があるし、自分も高級鋼材製造事業には去る昭和元年以來遠ざかつてしまつたから之を詳述する資格もなし、茲には單に高級鋼材は大體に於て自給自足しうるものとだけ記して其詳細に及ばず、之より後は専ら普通鋼材のみに就て述べる事にする。扱我國

普通鋼材 の過去最高需要年額 270 萬吨を壓延設備的に區別した品種別内譯を見ると大略次の如きものであつた。之を後に記す我國現在設備と對照する必要と特に掲ぐるのである。

昭和 4 年普通鋼材需要高内譯表

品 種	數 量	割 合
大形(重軌條を含む)	480,000 吨	17.8%
中形(輕軌條を含む)	290,000	10.7
小 形	610,000	22.6
厚 板	280,000	16.4
中 板	140,000	5.2
薄板(電氣板を含む)	280,000	10.4
鋳 力 板	100,000	5.7
鋼 管	150,000	5.6
線 材	250,000	9.3

外 輪	20,000	073
其 他 帶鋼を含む	100,000	37
合 計	2,700,000	100'00

尙我國

鐵鋼の全需要と云ふ事になると、以上270萬噸の外に前記の高級鋼材に属するもの10萬噸(之には鋼鑄物も含まれて居る)と、更に鑄鐵物に使用した銑鐵を計上しなければならぬ。此の鑄鐵物用銑鐵に關する統計は、工場が夥しき數に上つて居て確とした數字が明瞭でないが、銑鐵の生産及輸入量から製鋼用に供したものを引去つて推定して、大體40萬噸と見られるから以上を總合計して昭和4年には我が國で320萬噸の鐵鋼が使用せられた事になつて居るのである。但し之は我國の土木、建築、機械其他鐵鋼を使用する工業が、昭和4年の現在に於ての話であつて、饒て夫等の諸工業が技術的に又は設備的に或は更に價格的に外國との競争に負けて、海外から輸入しなければならなかつたものに就て見ると、必ずしも全部鐵鋼ばかりで出来て居るものではないが、自動車、内燃機關、紡績機械、工作機械、縫衣機、汽罐、蒸汽機關、タービン、機關車、電氣機械、自轉車の類から新古船舶をも入れて昭和4年に海外に支拂つた價格は實に1億1,660圓を超過して居るのである。即ち我國は昭和4年に銑鐵と、鋼材と、鋼材半製品と、鐵鋼を重要材料とせる製品との輸入で

外國に2億6,000萬圓以上を支拂つて居たのである。

之等製品として輸入して居るものも、吾人工業に従事して居る者の目から見れば、其過半は立派に我國で製作しうるものであつて、現在でもまだ數多い使用者の内には舶來崇拜心の抜けきらざる者、舶來品を買つて置けば大丈夫だといふ淺薄なる安心を食ふもの、海外品のダンピングを利用するもの、甚しきは自己の責任となるを恐れ大丈夫と承知しながら國産品使用のリスクを敢てし得ざるものあるを遺憾とするが、此の如き事は製造者が種々の好機に其製品の輸入品に比して優るとも劣らぬ事を、實地に示す事によつて

漸次蒙を啓いて行く事になるので、漸くして漸次以上の輸入品迄我國でどんどん製作される様になれば、昭和4年に使用された銑鐵、鋼材丈では到底足りない事は明かな事であつて、將來に於ける我國の鐵鋼の需要増加は、譬ひそこに不景氣の爲めの一時的減退が顯れるとしても、景氣恢復の暁に必ず以前よりも増加して行く事は疑を入れる餘地のない事である。

茲で又元の統計に歸るが、前述の如く昭和5年、6年は我國も世界不況の影響を受けて生産、輸入共に減じ、全鋼材需要は5年229萬3,000噸に、6年は更に減じて184萬6,000噸に下つたが、昭和7年は後半期からの景氣立直りで228萬4,000噸に上り、昭和8年は好調を續けて上半期丈の統計詳細は實に次の如き數字を示すに至つた。

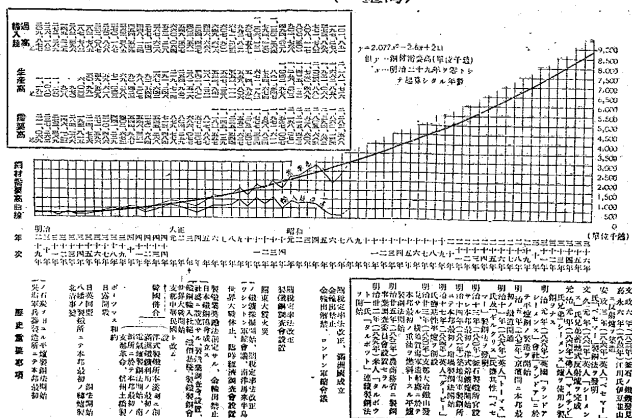
昭和8年上半期(1-6月)高級、普通兩鋼材の需要

(若干の推定あり後日訂正を要す)

全 需 要 額	1,497,000(噸)
内 譯	
本邦生産額	1,360,000
輸入より輸出を差引きたるもの	137,000
本期間に於て輸入せるもの	
製品たる鋼材	229,417
鋼材製造用半作品たる塊及錠	57,292
小 計	286,736
銑鐵、印度、滿洲其他より	351,802
(外合金鐵少許)	
合 計	638,541
外に製鋼、伸鐵用として屑(スクラップ)	457,540

昭和8年の需要は、8月に入りても何等其減退を見ず、人體上

附 圖 第 1 表 本邦(含朝鮮)鋼材需要高曲線圖



半期の2倍を以て年間需要と見て大差なかるべく、即ち299萬4,000噸とすれば、過去の最高昭和4年の280萬噸

記録を突破する事約20萬噸と見られる。之に前にも述べた鑄鐵物用の銑鐵を昭和4年の2割増しの50萬噸を豫想して加ふれば、本昭和8年我國では特種的事件勃發せざる限り、約350萬噸の鐵鋼を使用する事になるであらうと思はれるのである。

今迄の統計は、我國全體としての需要に就てあるが、之を

地方別にも其使用割合を見る事は、將來製鐵所設置の位置を考慮する上に大に役立つ事と思ふが、不幸にしてまだ我國全需要の分配統計が無いので、普通鋼材需要の約4割を供給する八幡の製鐵所の地方別發送高を掲げて参考に供しよう。

昭和7年中及昭和3年より昭和7年に至る過去5ヶ年平均の製鐵所鋼材地方別發送高割合

發送先地方別	昭和7年割合%	自昭和3年至昭和7年5ヶ年平均割合%
八 幡 渡	5.04	7.51
東 京 横 濱 方 面	32.36	33.43
大 阪 神 戸 方 面	38.03	39.98
伊 勢 灣 東 海 道 地 方	3.09	3.68
内 海 沿 岸 四 國 地 方	0.94	0.79
山 陰、北 陸、奥 羽 地 方	0.43	0.77
九 州 地 方 下 關 共	7.06	4.60
北 海 道、樺 太 地 方	2.28	2.34
臺 灣 地 方	0.97	0.97
朝 鮮 地 方	4.51	5.77
關 東 州 滿 洲 國 地 方	5.45	
支 那 其 他 外 國 向	6.09	0.00
合 計	100.00	100.00

(註) 製鐵所以外の小形棒鋼、薄板、厚板、線材、鋼管等も大體同じ様に分布されるものと見て差支あるまい。

表の數字を見ても阪神地方が一番多く全體の約4割で、京濱地方が稍々少く全體の約3分の1、ずつと下つて九州、東海、北海道方面といふ順序である。朝鮮及滿洲國のは軌條を多量購入される場合に其割合が多くなるのである。

(2) 將來に於ける鋼材需要の豫想

本邦及歐米諸國年1人當鋼材使用量

國 名	年1人當鋼材使用量	同 上 比 率	人 口 稠 密 度 1 km ² につき
日 本	42kg	100	156kg
ア メ リ カ	304	724	15
ド イ ツ	125	298	136
イ ギ リ ス	103	245	155
フ ラ ン ス	131	312	75
ベルギー	145	345	253

將來我國に於ける鋼材の需要がどう云ふ風に増進して行くかと云

ふ事を豫想するのは、過去に於ける前述の如き統計を基礎とする事は勿論であるが、同時に歐米に於ける鐵鋼使用

先進國の狀況 を調査して、参考としなければならぬ事は云ふ迄もあるまい。以上に掲ぐる表は即ち其數字であつて、其國の鋼材生産額に輸出入額の差を加減したものを需要額と見做し、夫を其國の人口で割つて年1人當使用量を示したものである尙其外に人口稠度をも掲ぐる事にした。

昭和4年(西曆1929年)の世界不況前のものに就て見るのが適當と思ふからそれに就て比較して見ると、我國内地(臺灣、朝鮮を除く)の年1人當りが僅かに42kgなのに對して、アメリカは304kgで7倍以上、イギリス、ドイツ、フランス、ベルギー、4ヶ國の平均は126kgで3倍になつて居るのである。我國は山が多く、鐵道も狹軌であるし、アメリカの如く人の割合に土地の廣い處に廣軌を敷きつめる上に、都會にはどんどん大建築物を造つて居るのは、1人當使用量にして見て夥しき差があるのは當然であるとしても、歐洲諸國殊に英國の如く、陸にも海にも永年に亘つて鐵鋼を以て造られたる各種の設備の充實した國が、年1人當りを比べて尙毎年我國内地の約2倍半も使用して居る現實を見ても、我國が

少くも今日の2倍 即ち普通鋼材を年550萬噸位使用せねばならぬ様になる事は決して何10年先の未來の夢などゝすまして居る事は出來ないのである。一方又我國運の發展に伴つて漸次増加し來つた鋼材需要の過去の

統計を數學的に 曲線に顯はし之を將來に延長して見ると、前掲附圖第1表に示した曲線の様になるが、之を辿つて550萬噸の年を見ると、昭和22年頃である事がわかる。英國の如き比較的需要の少い國の現在のものにも及ばざる我國今日の需要の倍額が、今から

14年も先き の事かも知れぬといふのは、誠に撫然たらざるを得ないではないか。我國運はもつともつと大股に且確實に發展して、14ヶ年の計算的數字は其半分にも短縮され、其時になつて自分がいかに氣永な事を考へて居たものだ、世間から嘲笑される様になる事を希望して止まないものである。

然しものには順序がある。昭和4年に270萬噸であり、夫が5年6年と下向きになり、7年8年と上向きになつて來て、やつと本昭和8年に昭和4年のレコードを破らうとして居るものが、そふ2年や3年で一躍550萬噸に飛上るわけもないから、茲に大體其中間の370萬噸を採り、本年の豫想はもう既に少な過ぎはするが第1に270萬噸第2に350萬噸、第3に550萬噸の順序に製鐵鋼の

設備と其原料 に就て述べる事にしたいと思ふが、茲に一つ必要缺くべからざるもので、然かも其推定の極めて困難な事がある。夫は前に270萬噸に就て、昭和4年の實例を示した

品種別内譯 が、將來350萬噸並に550萬噸に對してどうなるかと云ふ事である。現に厚板と中板の合計は昭和4年270萬噸の時は42萬噸で15.6%であつたが、昭和8年上半期はまだ正確な統計は出來て居ないが、以上兩者の需要が著く増して合計18%以上に上つて居る事實があつて、直ちに或年の實例を以て將來の推測を許さないのである。殊に實際に工場の新設擴張を計畫したり、目論見書の計算をしたりするには、最近の進展振を詳細に調査しなければならぬのは勿論であるが、茲に記述するのは稍々遠き將來の事でもあるから、机上論たるの譏を承知の上で、

外國の例に準據 する事にして見たのである。アメリカの如く1人當りの鐵道が長い上に自動車工業の夥しく發達して居る處や、イ

ギリスの如く造船事業の特に進歩した國の例は直ちに之を模倣する譯には行かぬが、ドイツの國內に於ける需要内容は稍々我國に類似したものがある上に、世界不況時に入つて昭和5年の全需要561萬6,000噸に、昭和6年に357萬噸を示して、丁度之から我國の目標としようとする數字に遇合して居るから、兩年の其内容平均に我國に特殊なる水農産物罐詰事業用鋳力板の多い事や、將來の建築橋梁、造船等に伴ふ大形條鋼の増加などを加味したものを550萬噸の内容と豫想し、350萬噸のものは大體前掲270萬噸の内容との中間に置く事にして見たのである。無論前述の如く單なる參考に過ぎないのであるから、其積りで御覽を願ひたい。次に其數字を掲げる

將來普通鋼材需要年額豫想並其内譯推定

品 種	摘 要		摘 要	
	數量噸	割合%	數量噸	割合%
大形重軌條を含む	1,170,000	21.3	680,000	19.4
中形輕軌條を含む	530,000	9.6	360,000	10.3
小形	1,050,000	19.1	730,000	20.8
厚板	610,000	11.1	570,000	10.6
中板	420,000	7.6	220,000	6.3
薄板電氣板を含む	320,000	5.8	280,000	8.0
鋳力板	210,000	3.8	140,000	4.0
鋼管	350,000	6.4	210,000	6.0
線材	570,000	10.4	350,000	10.0
其他外輪帶鋼を含む	270,000	4.9	160,000	4.6
合 計	5,500,000	100.0	3,500,000	100.0

曩に270萬噸の内譯を示し、今又茲に將來のものゝ内譯をくどくも掲げたのは其内譯によつて、製鉄製鋼の設備には餘り關係はないけれども、壓延設備には直接に大關係を有するが爲めである。後で記述する事であるが、或品種の現在の壓延能力は過剰であるが、他の品種の能力は不足して居る場合、壓延作業としては夫等を彼是融通が出來ないのであるから、簡単に鋼材を一經めにして何萬噸を要するのに、壓延能力合計が夫以上であつて充分だとして安心して居るわけには行かないのである。

更に我國は今日に於ても滿洲國に

輸出 して居るのであつて、之に對しては滿洲國自體に於て、今日既に昭和製鋼所が鞍山に製鋼壓延の設備に着手し、自給自足を目指しては居るが、今の計畫のものが出來上つても、鋳力板、鋼管線材厚中板の如きは當分は輸出を要するであらうし、隣邦支那に就て見ると、今日でこそ抗日騒ぎで日貨不買をやつては居るが、將來我國で生産原價が下る上に、運賃も少いし、歐米品に比して廉價に供給する餘裕が出來る様になれば、どんな國でも同等のものをわざわざ高く買つて喜んでゐる民衆はないから、國際感情の融和と相待つて、將來我國に於ける多量生産による剩餘を安く供給する市場として、支那は勿論南洋をも等閑視してならぬと考へるのである。そこで次に滿洲國並中華民國に於ける鋼材需要の統計を掲ぐる事にする。

滿洲國及中華民國鋼材需要

區 別	期 間	數量	摘 要
滿 洲 國	昭和3年より6年に至る4ヶ年の平均1ヶ年につき	147,983噸	棒鋼、鋳板、鋳力板、線材、鋼管其他及鍍金せる諸製品を含む
中 華 民 國	昭和4年より6年に至る3ヶ年の平均1ヶ年につき	413,114	

〔註〕 繁を避くる爲め品種内譯を略す。

合計56萬餘噸の内、其半ばを輸出するとしても28萬噸はあるから、我國今日の需要の1割程度は輸出しうるものと見てよからう。以上で鋼材は済んだが、此外に鑄鐵物用の

銑鐵を考へなければならぬ。之は甚だ簡単だが鋼材350萬噸の時には前述の300萬噸の時同様に270萬噸の時の40萬噸の2割増として50萬噸、550萬噸の時は其又2割増として60萬噸と見て大差なからうと思ふ。

(3) 製鐵鋼設備の現在及將來

以上述べ來つた處によつて、我國普通鋼材並に鑄鐵物用銑鐵需要の現在及將來が大體明瞭になつた事と思ふから、之から夫等鋼材の原料となる銑鐵及鋼塊が

どれ程入用であつて、現在我國に夫等を製出するどれだけの能力があるか、更に其鋼塊を所要の製品に壓延する設備がどういふ現状であるかを述べ、進んで將來の設備の事に及ぶ事にしよう。茲に一つ自分でも満足の出來ない事は現在といふものの標準を昭和8年上半期の2倍にし、其内譯を想定したものに據り能はざる事であるが、之は致方のない事として、昭和7年以前の最高額で以て我慢する事にする。次表摘要欄には説明的文字を用ひたから、大體は了解せられた事と思ふが、蛇足を顧ず少しく解説を加へる事にする。

普通鋼材及鑄鐵物用銑鐵年需要額
製造に必要な銑鐵及鋼塊所要量

摘 要	年需要額		
	2,700,000噸 の 場 合	3,500,000噸 の 場 合	5,500,000噸 の 場 合
1、スクラップを直ちに小形に壓延する伸鐵製品を最小限70,000噸として差引く	2,630,000	3,430,000	5,430,000
2、製品毎に歩止りを計算して合計せる所要鋼塊量	3,337,000	4,341,000	6,856,000
3、鋼塊製造に要する製鋼原料裝入量	3,406,000	4,401,000	6,928,000
4、自工場返し「スクラップ」	567,000	738,000	1,165,000
5、本邦に於いて生ずるスクラップ並に海外より輸入するスクラップの合計より前記(1)の伸鐵用を引去りたるもの	763,000	813,000	1,063,000
6、製鋼原料に要する銑鐵量	2,076,000	2,850,000	4,700,000
7、鑄鐵物に要する銑鐵量	400,000	500,000	600,000
8、總銑鐵所要量	2,476,000	3,350,000	5,300,000

1、のスクラップを直ちに壓延して小形棒鋼を造る伸鐵業なるものは、今日では年12萬噸位の製品を出して居るが、鋼材相場によつて甚しく其製出量に消長のあるのと、製鋼設備の方から見れば伸鐵を小さく見て置く方が安全であるから、假りに7萬噸としたのである。尙將來此事業はスクラップの輸入が困難になると共に銑鋼一貫作業が増加して生産費が下ればスクラップの代りに普通の半作鋼片を使用する様になると思はれるから、そうなれば普通壓延設備の一部と見て、5,500,000噸の場合でも比例的に増加するものと見ない方が適當である。

2、の鋼塊所要量は大型の壓延作業では製品は鋼塊の何%の歩止り、薄板ならば幾らといふ風に夫々の実績があるから、前掲の内譯表に就て一つ一つ計算して合計したものである。

3、の製鋼原料裝入量とは鹽基性平爐で普通鋼材用の鋼塊を造る場合裝入原料にスクラップの割合に多くするスクラップ法と、銑鋼一貫工場で一般に使用されて居る熔解せる銑鐵を多量に用ゆる鑄石法とがあつて、後者は鐵鑄を澤山入れる爲めに夫が還元して鋼塊として歩止りがよいので、其事實を加味して5,500,000噸の方を少し

よくして居るのである。

4、の自工場返しスクラップとは鋼塊が同一製鐵鋼所内で製品に壓延される時に出る切端其他で再び製鋼原料として平爐に送り返さるゝものである。

5、の内地及輸入のスクラップの事は製鋼事業の一大問題であつて、其豫想量等も輕々にきめる事は出來ないのである。内地で出るスクラップは我國が歐米諸國に比べて鐵鋼材の使用始めが遅く且つ其後の使用量も少い關係上廢却される量も少く、過去の実績に徴して安全に年約35萬噸程度と見て、將來夫が5,500,000噸の場合55萬噸位になると豫想して居るのである。海外より輸入するスクラップは今日の如く世界が不景氣で製鋼事業が全能力の半分以上といふ様な場合には、我國内で賣買される銑鐵よりも安く入手する事が出来る。元來世界で出るスクラップに不況前の昭和4年頃は年約2,500萬噸と推定され、其内1,700萬噸迄を米國で使用して居たのだが、其米國の製鋼事業が昨昭和7年の如き昭和4年の24%しか働いて居ないのであるから、スクラップの世界中にだぶついて居ることは想像に餘りあるのである、我國のスクラップ輸入は昭和4年には前掲の如く約49萬噸であつたが、昨7年には約56萬噸を上り、本8年上半期の半ケ年で既に約46萬噸を輸入して居る事は前掲の通りである。しかし茲で徐に考へねばならぬ事は、現に其兆を顯はして居る如く、米國初め諸外國の製鋼事業が恢復すると共に、世界の景氣が出て船賃が昇騰する事になつても、果して今日の如くスクラップを輸入する事が出来るであらうかといふ問題である。若し今日の如くスクラップが入らぬとすれば、銑鐵を以て之を補はねばならぬが夫には銑鐵を造る鑄鐵爐の設備が充分でない。假りに銑鐵は差當り輸入してもやるとして、今日我國に現存する40基を超ゆる25噸乃至30噸の平爐では、前記の鑄石法を活用するには適當でないといふ悲境に陷るのである。以上の表に於て自分は以上の理由から5,500,000噸の場合にも輸入スクラップは60萬噸を限度として計上して居るのである。幸にスクラップが確實に入る見込が立てば熔鐵爐の新設を控へれば宜しい。

6、の製鋼用に供する銑鐵量といふのは前記3の製鋼原料裝入量から4並5のスクラップを引去つたものに外ならぬ。製鋼作業の實際には、若干の合金鐵を要するが夫等は略する。

茲で又本文に戻るが、以上の表の内から第1に、現在の鋼材2,700,000噸の場合の鋼塊所要量3,337,000噸を採つて、我國現在の

製鋼能力と對照して見る事にしよう。

我國現在の普通鋼材を造る製鋼設備は、官民15の製鐵鋼所を合して今日の如くスクラップが比較的容易に入手出来るとして、年約290萬噸と見る事が出来る現に昭和8年上半期は休んで居てまだ火を入れるに至らない工場が一つだけあるが殆んど全能力で働いて既に145萬噸以上の鋼塊を製出して居るのである。尤も之は前述の如くスクラップの供給が充分である事が大なる原因である事は申す迄もないが、前記の能力は適當と見られる。即ち需要鋼材全部を我國で壓延するとすれば、鋼材2,700,000噸の場合鋼塊は約47萬噸の不足を生ずる事になるのである。尙前にも述べた如く、不幸にして

スクラップの輸入が、量に於てか又は價格に依てか、何れにしても困難になる事を豫想しなければならないが、そうすると話は違つて來るのである、前掲の銑鐵鋼塊所要量の表は輸入スクラップを安全に50萬噸と見て居るから僅かに本昭和8年上半期の約半分であつて、所謂能力は250萬噸前後に減ずるものと見なければならぬ

い。そうなるとすると製鋼能力不足は約 90 萬噸近くになるが、慎重なる。

将来計畫 としては此邊を目標とするのが適當ではないであらう。一方又輸入スクラップを必要としない。熔鑄爐から平爐、壓延作業に至る銑鋼一貫設備は、今日の製鐵作業進歩の現状に於て、額約 50 萬噸の製鋼を行ふのを一つの基準單位として居るから、大體其

2 箇單位の製鐵所を 建設すればよいといふ事になるのである。現に滿鐵が 4 ヶ年前山本總裁時代昭和製鋼所を設け、年額 50 萬噸を目標として、製鋼設備を購入したもの、正に將來を見越したる起業の現はれであつたのであるが、不幸にして中絶され、漸く最近になつて夫が鞍山の現在の熔鑄爐と連絡して建設せられる事になつたのは、邦家の爲め誠に慶賀に堪へない事である。尤も日滿經濟統制は彼我有無相通するものが原則であらねばならぬから、

昭和製鋼所 は滿洲の鐵礦と石炭を使つて鋼材の半作品と製品とを造り、半作品は内地の鋼塊不足を補ふべく輸入し、製品は滿洲國內の需要を充たし、餘裕は支那南洋にも輸出しようといふのである。しかし昭和製鋼所で製品を造ると云つても、そう何にもかにも造る事は經濟的な多量生産を無視する事になつて不利益千萬であるから、そう云ふ種類のものは前述の如く内地からの輸入に待つ外はあるまい。即ち内地から云へば滿洲國から半作品を入れ、其一部を加工して又滿洲國に出すといふ事になるのである。

殘りの 50 萬噸 の鋼塊は、後段に述べる銑鐵の現在能力から見ると、新に銑鋼一貫設備を建造するとすれば、銑鐵が徒に餘る事になるから、或は之を分けて過半を八幡の現在設備の擴張に依つて補ひ、殘りを輪西又は釜石の現地に設備するのが建設費節約の方法かも知れない。

次に鋼材 3,500,000 噸の場合の鋼塊所要量は 4,341,000 噸であるから 2,700,000 噸の場合の 3,337,000 噸を超ゆる事 1,004,000 噸で、内外スクラップが幾分増すから、在來平爐に夫に應ずる増産を見るであらうが大體に於て 50 萬噸銑鋼一貫設備 2 箇單位の建設を要する事がわかる。

其次は 5,500,000 噸の場合、之に要する鋼塊は 6,856,000 噸であるから、3,500,000 噸の場合の 4,341,000 噸を超ゆる事 2,515,000 噸で、之亦内外スクラップが前よりも増すから在來平爐の増産はあるが、大體 50 萬噸銑鋼一貫設備 5 箇單位、或其時分になれば 100 萬噸單位の方に進歩すると思はれるから其 2 箇單位と 50 萬噸單位 1 箇所の建設を要する事になるのである。之で製鋼關係を了つたが次は今述べて來た銑鋼一貫設備の内のものも含んだ

銑鐵の設備 に就て述べる事にする。

第 1 に鋼材 2,700,000 噸の場合に要する銑鐵も、スクラップを前掲通りと見て、鑄物用を加へて總量 2,476,000 噸である。之に對し我國現在の熔鑄爐は八幡の製鐵所(特に 9 月中竣工見込の 700 噸爐を加ふ) 戸畑の東洋製鐵、朝鮮兼二浦の三菱製鐵、釜石の製鐵所、輪西の製鐵所、鶴見の淺野造船所計 6 ヶ所に於て骸炭製造の能力に準據し、年に 1 度爐體の修繕を行ふものとし、年平均 350 日働くものと計算して、鑄石の質にもよるが、最近何れの爐も夥しく出銑量の増加して居るのを加味して大體年 200 萬噸の能力を持つものと見て過大ではない様である。現に昭和 8 年上半期の我國銑鐵產出實績は 698,943 噸であつて、これが 1 ヶ年續くとすれば、約 140 萬噸になるが、此外に八幡の 700 噸爐の開始や、其他休爐中のものが働き出せば、略ぼ前記能力同様となるのである。

滿洲國鞍山及本溪湖所在の熔鑄爐の能力は、前述の如く骸炭の能

力を基として、大體 45 萬噸であつて、現に昭和 8 年上半期の實績は 227,622 噸を示して居る。前述の如く昭和製鋼所が既に建設に着手した製鋼設備が完成するとすれば、自然鞍山の銑鐵は其方に使用されるから、銑鐵として内地に輸入されるものは本溪湖銑を主として、之に鞍山の剩餘銑が加はると云ふ事になるであらう。大體之を年 12、3 萬噸と豫想する。

即ち銑鐵の總所要量 2,476,000 噸に對し我國で 2,000,000 噸を造り、滿洲から 125,000 噸輸入する上に、鞍山から半作品で 200,000 噸輸入するとすれば、大ざつぱにそれだけ銑鐵は不用となると見て大體 150,000 噸の銑鐵が不足といふ事でけりがつくのである。之位のものなれば東京、大阪附近の海岸で、都會の瓦斯を造る石炭の副産物として適當なる骸炭を造る設備を完成すれば、其骸炭を以て海上から來る適當なる鐵礦や、硫酸製造の副産物として出來る硫化鐵礦の燒滓を利用して、相當經濟的な熔鑄爐作業が成立しうるのである。

次に鋼材 3,500,000 噸の場合銑鐵總所要量 3,500,000 噸は 2,700,000 噸の場合の 2,467,000 噸を超ゆる事 874,000 噸であるが當然 2 分して夫々前記新銑鋼一貫工場に建設すべきである。鋼塊製造には銑鐵の外にスクラップ利用の餘地があるから、

製鋼原料には 支差ない。

其次は 5,500,000 噸の場合の銑鐵所要量 5,300,000 噸は、3,500,000 噸の場合の 3,350,000 噸を超ゆること 1,950,000 噸であるが、之亦夫々前記新銑鋼一貫工場に 5 分又は 3 分して建設すべきものである。設備問題の最後として鋼材の製造に直接の關係ある

壓延設備 に就て述べる。

壓延設備に就て第 1 に必要な事は各種の壓延機による

製品の區分 である。造船用の厚板を壓延する設備で弐力板の如きものを造る事が出來ず、コンクリートの丸棒を造る機械で大きなレールを造り得ない事は誰でも知つて居るが、大形用壓延機と稱するものゝ内の比較的小さなものでは中形が出來るし、薄板用壓延機で中板も造りうるのであるから、微細な點に至ると製品のどの種類はどの壓延機と判然と決定してしまふ事は困難であるが、大體觀察としては前述の鋼材品種類別内譯の表に示した様に、夫々の製造に使用する壓延機を専用として計上する事が便宜であるから、一應そう云ふ事にして計上する事にした。第 2 は各壓延機の能力であるが之が決定に最も必要な事は造る可き

製品の寸法と量 とであつて、譬へば一つの壓延機で一寸法のものを多量に連續製造するのと、各種の寸法のものを少量宛製造するのでは、年の能力としては夥しき相異を生ずるのは當然の事である。處が我國の如く總需要量が少く且つ建築橋梁等一切の鋼材を使用するものゝ形狀が多種多様に亘る處では、勢ひ品種寸法別が多くなつて一寸法のものゝ量が減ずるから、所謂單種多産を實行する事が出來ないし、更に今日の如く多數の工場が分立して居て、夫等が各自の經營上、各寸法のものを製造するといふ有様では益々單種多産に逆行するばかりであるから、各壓延機の能力を減ずる事は勿論、生産費の高まる事は申す迄もない。尙壓延機の能力に就ては、假りに單種多産が出來るとしても、大きな斷面のものを造る方が小さい斷面のものを造るより著しく年生産力を増すのは之亦申す迄もない事である。そこで茲に各壓延機の能力としては我國現在の需要内譯と目下の分立狀態を考慮して想定したものを掲げる事にしたのである。將來製鐵合同が實行されて各壓延機の生産分野が確定され一方鋼材使用者の方に於ても、國家的に考へて出來るだけ寸法品種

の数を単純化する様に進歩して行く事になれば、之等の所謂能力なるものはもつともつと増加する事になるのは明かである。

次に普通鋼材年需要 2,700,000 吨の場合の前掲内譯に對する夫々の所謂現能力なるものゝ對照表を掲げる。

普通鋼材年需要 2,700,000 吨内譯及壓延能力對照表

品 種	需要數量 ^原	壓延能力 ^原	不足
大形重軌條を含む	480,000	710,000	過
中形輕軌條を含む	290,000	255,000	35,000
小 形	610,000	643,000	過
厚 板	280,000	533,000	過
中 板	140,000	110,000	30,000
薄板電氣板を含む	280,000	335,000	過
鋳 力 板	100,000	85,000	15,000
鋼 管	151,000	99,000	51,000
線 材	250,000	320,000	過
其他外輪帶鋼を含む	120,000	20,000	100,000
合 計	2,700,000	3,110,000	201,000

以上表を見て 1 番目につくのは

大形と厚板 の壓延能力の過剰である。之は歐洲大戰中我國に於て特に隆盛を極めた造船事業の材料供給の爲めに民間に建設されたものと、軍縮問題勃發以前主力艦建造を主たる目標として八幡の官設製鐵所に設備されたものが、今日夫丈の仕事をなくなった結果に外ならぬのであるが、八幡の大形工場の如き之があつたればこそ土木工事用のシートパイルを製造し、輸入品に代へる事が出来たのである。又各處の厚板工場も曩に本昭和 8 年上半期需要内譯の處で述べた如く、厚板需要の著しき増加によつて何れも活氣を呈する様になりつゝあるのは幸せである。不足のものゝ内目星いののは

鋼 管 であるが、之も目下川崎の埋立地にある日本鋼管會社と昭和鋼管會社とで相當設備を行ひつゝあるから、何れ充實するであらう。

鋳力板 は八幡の製鐵所で現に年 35,000 吨を造り、別に 50,000 吨の新設備九分通り進行中であるので、85,000 吨と計上したが將來一部の擴張によつて 100,000 吨にする事は容易である。

中形中板 は前にも述べた如く大形工場や、薄板、厚板の工場の利用で多少の融通は出来るが、尙現に夫等専門の設備に着手したのもあるから、大體に於て甚しき不足とは思はれないが、茲に一つどうしても我國内で造らねばならぬものは、表中に其他として掲げてあるものゝ不足 100,000 吨である。此 10 萬吨の重なるものは

帶 鋼 であつてリボンとかストリップとかフープとか稱せらるゝものに外ならぬ處が其種類たるや寸法別だけで 100 數 10 種に及び、之に品質別を加味すると何 100 といふ種類になり、昭和 8 年の輸入表を見ても一寸法で 1 番多いので半々で 3,300 餘吨、少いになると僅かに 1 吨といふのであるから、今日迄誰れも其製造設備建設に躊躇して居るのは無理のない事である。が、しかし之等も早晚我國に於て自給自足する事に解決すべきものと考へるのである。尙以上の表を見ても壓延設備の不足よりは

鋼塊の不足の方が多い 事がわかる。

次は普通鋼材需要 3,500,000 吨及 5,500,000 吨の時に於ける壓延設備の不足であるが、2,700,000 吨に對する 能力 對照と 前掲の 3,500,000 吨並に 5,500,000 吨の内譯表とから幾ら不足するかさぐわかる事であるから、茲には全部夫等を省略する事にする。只其

建設すべき位置 に就ては一言を要するものがある。元來銑鋼一貫作業の意義は石炭を炭にして夫と鐵礦とを熔鑪に入れた以上は夫が銑鐵になり鋼塊になり、壓延されて製品になる迄冷却する事なく、途中動力、加熱に要する燃料は出来る丈に炭炭窯と熔鑪と

から出る瓦斯を用ひて製品噸當りの石炭を減じ、同時に各部に亘る重複や無駄を省くにあるのであるが、製品の種類に依つて薄板や小形の如く途中で一度冷却するものもあるから、夫等の作業は、運賃其他の關係上半作品で市場近くに運び、其處で製品に仕上げた方が利益な場合がないでもない。種類の多い帶鋼の如きも其一例ではあるまいか。そう云ふ一部の製品を除く他のは無論銑鋼一貫作業で單種多産主義で製造すべきもので、將來の増産設備は此點を充分に考慮決定すべき事は云ふ迄もない事である。

(4) 主要製鐵原料の調査

普通鋼材製造に要する製鐵原料の主たるものは鐵礦、石炭、滿鐵礦、石灰石、耐火材料の 5 種に指を屈することが出来るが、其第 1 は無論

鐵 礦 である。誰も知る如く、我國は鐵礦に就て天然資源に恵まれて居らぬ事は事實である。岩手縣釜石鐵山と北海道倶知安鐵山との二つ以外には、今の處目星しいものが無いのである。しかし一度目を開いて赤道に至る迄の東洋方面を見渡すと、歐米諸國の様に詳細の調査は進んでは居ないが、その代り調べれば調べる程鐵量は増して來て、今迄の調査だけでも滿洲國や朝鮮の 35 %乃至 40 %鐵分を含む所謂貧鐵は全然別として、内地、北支那、楊子江筋、比律賓、佛領印度及馬來半島に於て鐵分 50 %乃至 65 %の立派な鐵礦が少くも 1 億 8,000 萬噸は確實に存在して居る事が明かで、而かも大部分は石炭の供給に不便な處である。これに滿洲、朝鮮に在る無盡藏とも稱すべき貧鐵を加へれば、假りに我國の鋼材需要が今日の倍額の 5,500,000 吨になり更に増進するとしても、鐵礦獲得の將來は

充分に安心 出来るのである。夫では馬來半島などから運んで來て經濟的にどうかと云ふ問題であるが、夫れに就ては懼らく案外の感があるのであらう。アメリカは國內に大部分の鐵礦が出るが、夫は太湖の先に在るので、先づ汽車で運び、太湖 1,000 哩近くを船で運び、更に汽車に積替へて運搬するのが普通である。ドイツはローリングゲンをフランスに取返されて所謂ミッネット鐵礦の利用が少くなり、大部分はスウェーデンの最北部の鐵山の鐵石を使つて居るので、先づ汽車でノルウェーを通り抜け、北海を船で運び、再び積替へてライン河を巡航するのである。今次に世界不況の深刻になる以前の實例を表にして示して見よう。

日米獨の鐵鋼輸送距離比較表

國 名	年 次	鐵礦年間 使用高	水上輸 陸上輸		總輸送運數 (陸上の運 送費を水上 の 10 倍とし て換算した るもの)
			送運數 (平均 噸當)	送運數 (平均 噸當)	
日 (内地鮮滿全部)	昭和 5 年	2,816,587	1,143	24	1,388
本 (八幡戶畑のみ)	昭和 5 年	1,499,618	1,705	24	1,945
ア メ リ カ	昭和 5 年	51,760,000	990	151	2,500
ド イ ツ	昭和 4 年	23,238,000	1,166	89	2,056

特に我國に有利な事は、運送する鐵礦の品位の宜い事で、馬來半島のものは 65 %もあるので、之は一吋他に類が少いのである。日支の關係が今日の有様でも、楊子江筋の鐵礦はどんどん來て居るので、これも大冶のものは僅に 60 %以上もある。之等に比べるとドイツのものは 55 %と 90 %との中間位のものでもあるし、アメリカの鐵礦資源は更に夫よりも低く近頃では 55 %以下になつて居ると云はれて居る。

滿洲國では今日既に鞍山製鐵所に於て附近の大孤山の貧鐵を大々的に爆破して、その 35 %程度の鐵礦を磁力選礦して立派に製鐵事業を行つて居るので、將來前述の滿洲朝鮮に

無盡蔵の貧鐵 を使用すれば殆んど永久に鐵鐵の心配はないのである。尙今日我國では大部分の鐵鐵を海外の富鐵に仰いて居るが、政府は常に少くも1ヶ年分位の鐵鐵を貯藏して居つて、何か事が起つて支那、南洋から來なくなつた場合に、其貯鐵で作業を繼續しつゝ内地の前記釜石、俱知安の採鐵設備を増設し、一方滿洲朝鮮に貧鐵處理設備を建てれば、萬々一所謂經濟封鎖といふ様な事、又は不幸にして支那、南洋からの海上輸送が止まる様な事があつても、其の時になつて決してあわてる事のない丈の事はしてゐるのである。

次は

石炭 である。今日の普通鋼材大量生産の製鐵事業は、市場の關係もあるが、大體に於て石炭を基礎として其位置を定めるのが普通である。現に歐洲に於てもスウェーデンの鐵石をドイツの石炭地方に運び、スペインの鐵石をイギリスの石炭地方に運ぶが如く、石炭のない馬來半島から鐵鐵を我國石炭地方の靜かなる海岸たる八幡に運んで來るのは、誠に當然の事である。そこで一體鋼材製品1噸につきどれ位の石炭が要るかといふに前記の銑鋼一貫設備で八幡の製鐵所の實例は薄板、鐵力板の如き相當加工程度の進んだものも含み耐火煉瓦迄焼いて、昨昭和7年度の統計は1.8噸を超へないのであるから、假りに鋼材需要が今日の倍額の5,500,000噸になつても滿洲で造るものに要する石炭を差引けば、我國での製鐵用石炭は大體700萬噸程度である。

我國では内地だけで今日年3,000萬噸以上、滿洲國で約800萬噸の石炭を採掘して居つて、大體其一割を製鐵用に使用して居るのであるが、昭和7年鐵石局發表の數字によると、筑豊炭田だけで殘存可採量133億7,000萬噸以上とされて居るし、北海道も亦調査の進むに従つて、殘存可採量が増大して行くから、製鐵の爲めの石炭使用量が今日の倍額位になる事は何等心配を要しないのである。

次は

滿鐵鐵 であるが、之は我國に産するものは品質は良くないが、量は相當あるからいざといふ時には困らない。平素は滿鐵分豐かなものを支那、印度、其他から輸入する方が技術的に經濟的に利益な場合が少くない。ドイツが歐洲大戰の終りに滿鐵鐵にも困り出したことは、以て我國にもよき手本とすべきであるが、鐵鐵石と違つて何と云つても量が少いのであるから、對策も講じ安いわけである

石灰石と耐火材料 とであるが石灰石に就ては我國は之こそ天恵に浴して居ると云つてよからう。殊に北九州の如き大に然りであつて、八幡の製鐵所の位置は此點に於て誠に地の利を得て居るのである。

耐火材料といふのは大體粘土、硅石。苦灰石(ドロマイト)、苦土鐵(マグネサイト)、クローム鐵(クロマイト)、の5種であつて使用量も概ぼ此順序になつて居るが、粘土と硅石は我國に豊富であるのみならず、硅石の或るものは世界的にも良質のものであるのは仕合せである。ドロマイトは大連の對岸なる甘井子石炭積込棧橋は此岩石の上に建設されたもので、附近一帯充分なる鐵量を有するしマグネサイトは滿鐵線路が大石橋驛を通過する際の東側の山々は殆ど此石であつて、世界的にも稀に在る豊富なものである。尙關東州滿洲國には硅石や上等な耐火粘土が澤山に在る事は我國として誠に仕合せな事である。クロマイトは耐火材料としては餘り品質のよいものには及ばず量も少くてよいので、夫位のものは我國にも相當存在するもので敢て海外からの輸入を要しない。

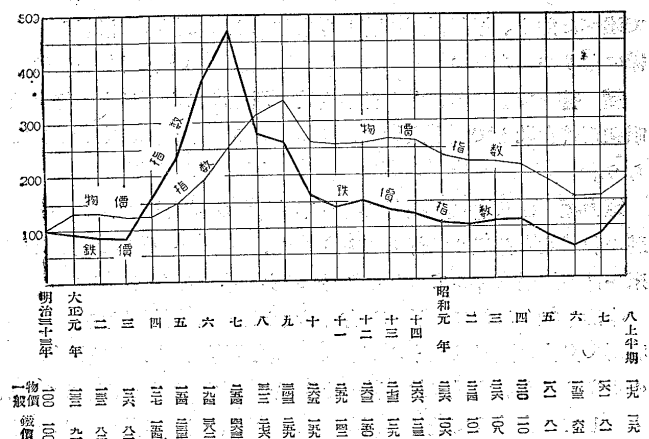
(5) 製鐵事業經營今日までの狀況

我國で始めて洋式の比較的規模の大なる製鐵所が設立されたのは今より半世紀以前、明治13年に岩手縣の釜石に政府が創設した、現在の釜石製鐵所の前身が夫である。不幸にして政府事業として之が失敗に終つたので、爾來20ヶ年近く官民共に思ひ切つて製鐵事業に投資するものが無かつたが世界の競争場裏に乗り出すべき我國が、文明國として必要缺くべからざる銑鐵や鋼材を、全然外國の輸入に待たなければならぬといふ事は、到底國家として忍び能はざる事なので、遂に政府の識者によつて、現在の八幡製鐵所が計畫せられ、明治34年に始めて製品が造り出された事は、曩に記述した通りである。

創業當時 の鐵鐵は釜石のものが主で、越後の赤谷のものなどが大に望みを屬されて居たが、其後楊子江筋の大冶鐵山及馬來半島のものが次々に重用される様になつて、前項原料に就て述べた如く創業當時の様な鐵鐵の心配は殆んど霧散する事になつたのは、誠に國家として慶賀至極の事であるが、此間に處せる過去當局の苦心は實に想像に餘りあるものがある。鐵鐵の獲得ばかりでなく、技術的にも、經濟的にも、苦心慘愴しつゝある處へ、

歐洲大戰 が勃發したのである。以下に日本銀行調査による明治33年を100とした一般物價指數と鐵價指數との大正元年以來毎年

附圖第2表 大正元年以降我國物價及鐵價指數比較圖表



が132なるに對し鐵價指數は82即ち一般物價の6割2分位だつたものが、歐洲大戰の爲め、鐵價指數は154に飛上り、益々昇騰の兆があつたのであるから、八幡の製鐵所の好況は勿論、民間には

雨後の筍 の如く、製鐵鋼所が設立されたのである。大正4年から大正7年迄上る方で、大正7年には遂に鐵價指數463に上りつゝ、物價指數はまだ254にしか上らず、鐵價は一般物價の18割以上になり、鐵價だけを比べると、戦前の6倍近くになつたのであるから、從來鐵鋼に従事して居た人には、夢の様な話であるが、新に鐵鋼事業に携はつた人達には、當然の様に考へた人も少くはなかつたのであらう。

大正8年 に、夫が又元の道に戻りかけると、忽ち製鐵事業救済などいふ聲を聞く様になつたが結局殘るものは残り、つぶれるものはつぶれてしまつて、前述の如き今日の現状となつたのである。

大正13年末から大正14の春にかけての、高橋農商務大臣の時

鐵鋼調査會 に於て委員一同の意見は、我國に於て經濟的に外國品に對抗して果して製鐵事業が成立するか否か、官設製鐵所に就

て先づ夫を實驗した上、其成績を見て更に民官製鐵所の大合同を行つて、我國製鐵事業の基礎を強固にすべきであるといふにあつたので、爾來8ヶ年、圖表に示す如く鐵價指數は大體に於て下の方で、銑鐵は印度銑の競争輸入の爲め、我國民間製鐵所に於ける大量生産を行ふ事を妨げられ、加ふるに一般事業界の不況の爲め、需要は減退して、銑鐵の市價は法外に下落し、鋼材に於ても同じく、一般の不況で需要影しく減退せる處へ、歐洲大陸からのダンピング的輸入で、市價は下る一方で昭和6年には遂に一般物價指數153なのに鐵價指數は僅かに65と云ふ4割2分にしか當らぬまでに下落してしまつたのであるが、幸にも八幡の官設製鐵所は規定の減價償却が出来なかつただけで、收支の勘定には赤字を出さなかつたのである。即ち前述調査會の意向にどうにかこうにか添ふた事になつたのである、昭和7年下半期以來鐵鋼關稅の改正、爲替相場の低落、時局匡救事業とインフレーション政策の進行に伴ふ實需増加すら昭和8年上半年の鐵價指數は129となり、今日官民各製鐵所は何れも好成績を示す様になつて居るのである。多年の懸案であつた

製鐵合同の問題も、愈今春の第64議會に於て決議せられたのであるから、之が實現の暁は、縷々前述したる如き、現在及將來の製鐵設備改善の實現も容易になり、其進歩を待つて、我國は現在の鐵鋼輸入國から一轉して其輸出國となり、國內市場に對しては今日の如き外價追従から一變して、我國獨自の鐵價を以て供給しうる様になる事が期待せらるゝのである。(昭和8年8月25日(終))

12、1月積先物協議會 —2圓上げ—新記録

品 種	入電沖着	河岸着値段 (爲替1/2%)	希望	決定	備考
角鋼	5-10-0	119.10	104	106	2圓上げ
平鋼(本所分野)	5-10-0	119.10	104	106	"
大型山形鋼	5-8-0	117.43	103	105	"
工形鋼	5-2-6	112.83	99	101	"
溝形鋼(吋寸法)	5-15-0	123.28	112	114	"
"(耗寸法)	5-5-6	115.34	99	104	"
丸鋼	5-10-0	119.10			
" 9mm	6-3-0	129.97			
中小型山鋼形	5-8-0	117.43			
鋼板 6mm以上	6-15-0	140.00			
" 4.5mm	7-2-6	146.27			
" 3.2mm	7-12-0	145.21			
" 2.3mm	7-18-0	149.35			
" 1.6mm	7-2-0	152.70			
黑薄鋼板	12-10-0	256.37			
線材B.W.G.No.5	7-0-0	141.43			
鉄力板 170 lbs	1-13-5	30.12			
" 100 lbs	0-18-1	16.35			

月日場所 10月7日 製鐵所東京出張所

出席者 4社、三都問屋及製鐵

議事 12、1月積先物賣出に關する件

1、値段 外注値段を見るに先月に比し棒鋼に於て若干の値上りはありたるも、型钢に就ては溝の耗を除き、僅少ながら軟調を報ぜられ居るを以て三都一致の希望として据置であつたが、丸鋼其他の鋼材の振合より見て僅少にでも値上げの至當にて市場にも好感を興ふるべしとの意見出て結局2圓上げと決定し、高値の新記録を再び現出した。

2、數量 先般積運れに就ては4社と八幡に於て協議會を開き、大凡2月迄に解決すると云ふ條件にて買手側の無條件引取り方を交渉し、大體同意を得たるも問屋側の意嚮を慥かめ之を承認さるれば今月の賣出數量に就ては相當考慮すべしとの販賣部長の意見開陳あり、買手側としては猶一應書類を以て慥めたる上數量も決定すべしと云ふことになつた。

11月積珪素鋼板の引受

9月22日に締切られた、11月積の珪素鋼板の申込は前月と殆ど同數の1,000餘吨であつた。

内部に於ては、他社製品の進出に依る販路の縮少、各の手持の過不足、注文保有の寡多等各メンバー夫々異なる状態を示してゐても、元來實需に應じて進退してゐる珪素鋼板なので三S會總體としては自然的に有無相通じて大なる變化なく突發事情の起らぬ限り常に1,000吨を前後して波瀾なく推移するものと見られてゐる。

11月積珪素鋼板申込及引受高

品 種	B 級	C 級	D 級	T 級	計
35mm	330	—	110	230	670
43mm	230	—	—	100	330
5mm	20	—	—	—	20
計	580	—	110	330	1,020

12、1月積9mm中丸賣出協議會—3圓上げ

月日場所 10月7日 製鐵所東京出張所

出席者 關東鋼材、製鐵4社及東西問屋

議事 12、1月積9mm中丸賣出に關する件

一言の加ふべく無く幹事より次記に了解せられたしと云ふ至極簡単な提案があつて賣手買手共之を承諾決定と云ふ段取りとなつた。蓋し市場の好轉は總ての協議會を理屈ぬきで一瀉千里に片付させるものである。一朝軟風吹いた際の紛糾する慘憺たる協議會に比し、現在は寔に多幸である。

9mm 83圓(3圓上げ) 中丸 105圓(〃)

11、12月積厚板共販締切理事會—申込1萬7,000吨

月日場所 9月29日 製鐵所東京出張所

出席者 淺野、東海及製鐵

議事 11、12月積厚板締切に關する件

厚板の申込は殆んど判で捺した様に1萬5,000吨近所の釘付けとなつた賣出數量も決まつて居るし、割當てられる數量も大凡分つて居るから申込も自然に形式上に流れて斯る結果となる。但し内容を見ると前月とは一寸異つて今月は大阪が1萬吨を越えて居るが大勢は變らない。引受も前月と全く同じで3,640吨である。

市場もあの龍大な輸入を擁して居ることであるから、如何に非常時氣分で跳つて居るとは云へ共販が腹が空いて居れば到底持ち堪へないのだが、御方便にも連月斯く制限されて居るので、環境の強化と相俟つて相當高値を保持して居るのは幸である。

締切 9月27日

11、12月積厚板申込及引受高

向 先	東京	大阪	名古屋	其他	計
川崎	—	1,650	—	—	1,650
淺野	2,150	200	—	—	2,350
東海	600	600	—	—	1,200
製鐵	2,910	3,950	—	150	7,010
無指	550	3,750	—	164	4,464
計	6,210	10,150	—	314	16,674
引受高			3,240		3,240
付尺板			400		400
計			3,640		3,640

12、1、2月積中板共販賣出理事會—1中板2圓上げ 2中板4圓上げ

月日場所 10月9日 製鐵所東京出張所

出席者 東海、製鐵及4社

議事 12、1、2月積中板賣出に關する件

今月の問題は値段ではなく寧ろ數量で、1 吨でも餘計に出して欲しいと云ふのが買手の希望である。賣手は東海の工場も 9 月 21 日より恢復し、製鐵所も大部緩和されたるを以て買手の要望を加味して出來得る限り多量に賣出すと云ふことゝなつた。

今日の外注値段は、歐洲統制の有無により 1 中板と 2 中板は寧ろ逆轉と云ふ奇觀を呈したる爲め、2 中板は益々懸絶すると云ふ状態となつた、之と内地の秋高の市況より判斷すれば値上げ率の多少は如何様にも理論付けらるゝも市場も賣手も特に慎重を要する時機なるを以て買手希望の通り 1 中板 2 圓、2 中板 4 圓と云ふ穩健の値上げと決定した。

猶積月は賣出數量の關係上 12、1、2 月積とした。

1.6mm 142 圓(2 圓上げ) 3.2mm 132 圓(4 圓上げ)

2.3mm 137 圓(〃) 4.5mm 124 圓(〃)

Chuita Dec./Jan. Shipment

9th Oct., 1933.

Kette;

1.6mm	7-1-3	¥ 152.08	142
2.3mm	6-19-0	148.11	137
3.2mm	7-12-0	154.23	132
4.5mm	7-0-0	144.19	134

Ex. rate 1/2 1/8

11、12、1 月積中型山形共販賣出理事會—4 圓上げ

月日場所 10 月 9 日 製鐵所東京出張所

出席者 鋼管、東海、製鐵、4 社及三都間屋

議事 11、12、1 月積中型山形鋼賣出に關する件

1、未來は不可解である。先月名古屋で賣止めする迄の中型山形に將して今日の好調を豫期した者が幾人あつたらう。先月の賣止めは今秋の鋼材の昂騰の動機となり、中山も遂に東西共 100 圓を突破するに到つた。

買手要望は、現在の市況は確かに好轉し、外注値段も高値を報じ居るも、過去の痛手もあり旁々市場を平穩に推移せしむる爲めと將來に希望を残す意味より徐々に値上げする爲め値段は 3 圓上げ程度とし、數量は定期數量と以前の借吨數 2,000 吨も引取りたし、猶積月は前月休みたるを以て元來より云へば 12、1、月積なるもメーカーの都合により早積し得る場合を考慮して 11、12、1 月積とせられたし。

2、理事會の意見は値段は環境と買手希望の内將來の市場を考慮して 4 圓上げとし、數量は此際餘りに多量を出すことは折角芽生えかけた今日の好調の腰を折る原因となるを以て成るべく自重して定期數量の最少限たる 6,000 吨に貸吨數の半數たる 1,000 吨を加へて 7,000 吨と決定した。

等邊山形鋼 94 圓(4 圓上げ) 不等邊山形鋼 95 圓(〃)

3、締切 10 月 16 日

Chugata Angle

9th October 1933.

Cif.	£ 5-8-0
Ex. @ 1/2 1/8	¥ 91.75
Duty	25.06
Charges	2.50
	¥ 119.31
	¥ 117.43 Per 1,000 Kgs.

11、12 月積中板の締切—申込 5,000 吨に回復

9 月 15 日に締切が行はれた、前月は 4,000 吨臺に陥落したのに、今月は東海の工場の故障や製鐵所が不相變急がしいと云ふ旗色

11、12 月積中板の申込及引受高

向 區 先 別	東京	大阪	名古屋	其他	計
申込					
1.6mm	975	270	140	—	1,385
2.3	790	175	55	—	1,020
3.2	1,175	455	185	—	1,690
4.5	700	160	105	—	930
計	3,640	1,060	485	—	5,025
引受					
1.6	230	270	50	—	550
2.3	130	175	20	—	325
3.2	285	455	40	—	780
4.5	165	160	30	—	355
計	810	1,060	140	—	2,010

を見たのと、變らざる市場の好調は其申込を増加せしめて、今回は再び 5,000 吨を突破するに至つた、これも例により單に東京のみの申込で、大阪が東京同様自由な申込を探つたなら恐らく 1 萬吨は越えへたであらう。引受は前述の通り東海鋼業は 8 月 27 日より 9 月 21 日迄故障に依つて作業を休止した爲め、3.2 と 4.5 は前月に比し半數に近い減少となり結局總數量に於て 750 吨の引受減となつた。

締切日 9 月 15 日

9 月中 3 港輸入概況—1 萬 6,000 吨—復舊途上?

1) 本年 7 月の 4 萬 3,000 吨を最高として轉向し、8 月 2 萬 5,000 吨となつた 3 港輸入は 9 月となつて減少の色益々鮮に本年 3 月以來 7 ケ月振で 1 萬吨臺に退却するに至つた。

本年 1 月から 7 月に至るまでの増加振も物凄しい勢であつたが、前月以來は退くに疾き事潮の如く 8 月は 7 月の 58% 9 月は 8 月の 65% となり、日に月を追ふて激減しつつある。然らば總てが此の割合を以て一路減少を辿つてゐるか云へばそうではなくて當然の歸結ではあるが増加した際無茶苦茶に瀉進した物が、今は又同じ速度で後退してをり、其の他の物には大して變化は無いのである

即ち増減の震源地である丸、平、等山、鋼板 0.7mm 超の合計は 7,500 吨で前月の上記 4 種の計 1 萬 4,500 吨に比すれば半減であるが、其の他の物の合計は今月が 9,000 吨前月が 1 萬 8,000 吨で大した變化なしと云へる状態である。

斯くて思惑の權化であり、輸入界を一變させた是等の物は、今や精々過去を清算しつつあるので、永らく輸入數量の大半を占めて居た丸、平、等山、鋼板 0.7mm 超の合計が今月は總輸入量の 45% となつて輸入本然の姿に還らんとしてゐる。

然しながら風波は全く治つたのではなく、大阪の如き其の數量こそ珍らしくも横濱の下位となる程の激減振を示してゐるが、神戸、横濱が「特殊の物が大部分」と云ふ理想状態に復したのに反して思惑の對象と爲し得る品種に對しては未練氣がタップリで夫々の殆ど全部に近い數量を市場向の物に依つて充たしてゐる。

之れは要するに颱風が一過したのには相違ないが、禁斷の木の實は魅惑に満ちサタンは喰へと囁くので、俄に樂觀を許さないものがある。幸に輸入は激減しつつあるし、外注驅逐もあながち夢想ではないのであるが、若し世情に連れて理想のエデンに止る事が難いならば、せめて常軌を外す事なく自滅だけは避け度いものである。

アダムよ、イブよ、大阪よ

人の子をしてカインの末裔たらしむる勿。

2) 丸鋼は前月の 1/2 となり、然も神戸、横濱の全部は特殊物なので、此の點のみを眺むれば、輸入本來の面目を取り戻したかの觀があるが、大阪は激減して 700 吨弱となつたとは云へ其の全部が市場向なので、大阪のみを探つて考へると未だに思惑を刺戟する物あるを過敏に思はしめられて復舊途上か小康か迷はざるを得ない然し

ながら大阪の丸鋼の内譯は 9mm 150 吨、ベース物 400 吨、中丸 60 吨、太丸 70 吨と云ふ、工合に市場向の物とは云へ、前々月迄の情勢とは大分趣を異にし、中丸の激減の如き之れを正面より見れば此處にも亦常道復歸の状なしとは云へないので、最近の輸入狂時代以來の傾向である神戸が特殊物、大阪が市場向品の輸入港と、自ら輸入分野を協定したかの觀がある此の際兩港は別々に見ずに合せて計るべきものなのであらう。

角も數量は至極少いが神戸、横濱の全部は特殊物で大阪の全部が 25mm 以上 100mm までの市場向商品である。平鋼は角に比しては相當に需要が多い物でもあるし、本所の引受も少い上に、後れ走せに輸入の魔手が伸びた物なので、其の後始末も他に後れ今月もまだ 1,000 吨以上の輸入を見たとは云はれてゐる。従つて例に依り大阪の大部分は一應問屋さんの庫に納まる物であるが神戸、横濱にもそれらしい物や見積物と推定される官民の定尺物が、大した數量ではないが散見されてゐる。平の過去の輸入状態を見るに昭和 5 年 3 月まで常に 1,000 吨以上で其後は他鋼材同様減退したとは云へ、輸入極限時代とも云ふべき昨年に於ても他の棒鋼の如く有るか無しかに減少せず相當の數量が輸入されてゐるので此の儘減少の傾向が続くとしても今後も當分は全然外注を驅逐すると云ふ域に達する事は難かしいのではあるまいか。

等山は、極く僅少の特殊物を除いては、市場向の物で實需にも思惑にも間に合ふと云ふ元來が融通性の有る物なので、其の輸入は思惑の如何に關せず定尺物か然らずんば特殊物に限られてゐる、従つて思惑熱の冷め切らぬ中は市場向の物が目立つて輸入される事となるので、今月も數量は前月の半數 1,520 吨となつたが、小山 120 吨、中山 1,350 吨残り 50 吨が造船材料として行先の判明して居る物となり且つ神戸にこそ市場向の物は皆無であるが丸、角、平と異つて横濱の大部分もそれであると云ふ思惑華なりし頃と變らぬ内容を示すに至つた。

不等山、溝型も久しく翼尾に附して分相應の起伏を示してゐたが根が奔放不羈を許されない物なので速速くも退いて今は工形と共に大部分が、造船材料となり數量内容共に常軌を辿る事となつた。

鋼板 0.7mm 超は 3,500 吨で鉄力と合すれば、今月の半數に達すると云ふ相對的には依然として大きな數量であるが、神戸の 500 吨、横濱の 750 吨が造船材料であり、其の他特殊向の物も追々再入し始めたので 3 港全體としては思惑も愈々其の鋭鋒を納めたと云へるのではあるまいか。

然しながら、此處にも亦大阪がスクラップの 130 吨を除けば他は悉く中板 870 吨厚板 100 吨と數量こそ少いが所謂特殊物の影さへ無くて市場向の物のみを入れてゐると云ふ注目すべき事がある。厚板にしる、中板にしる、過般の大量が輸入された當時に比すれば騒ぐ程の數量ではないが、保税物が大分滿洲方面に動いてゐると云はれてゐるので、内地市場で少し値が出れば其の方向が何う變るかも知れない。兎に角大阪の鋼板は隙が有つたら飛びつかうとする餓狼の姿を改めず、未だに物騒な存在となつてゐるか。

3) 其の他の物には變則的な變化なく其の増減も時代の要求、環境の變化に應じて動いてゐると云つて差支へない状態で、それ等自身には取り立てゝ云ふべき事はないが、丸が行き、等山が去り、鋼板が退いたので輸入表に再び鉄力が君臨し、線材が擡頭し始め、其の他の物の姿も有りの儘に眺める事が出来るやうになつて來た。

何品種たるを問はず其の輸入増加を謳歌するのではないが、黒雲晴れて秀峰を望むは眞に夾快なものである。其の意味で鉄力と線材

の目に立つて來た事は決して悲觀すべきではなくむしろ優曇華の花咲く春を楽しんでよいのではあるまいか。斯くて永い間の嵐も終つて總ては自然の姿に還つて來たが世情が、經濟事情が何とはなしに蠢いてゐるので、大阪の情勢と共に不安を覺へさせられないでもない。復舊途上か、小康を得たに過ぎないのか、それは神様のみが御存知で吾等は茲に 1 萬吨に激減した事を以て胸撫で下してをればよいのかも知れない。

ブラッセル齋藤囑託通信 10 月 1 日 入電

市場閑散ながら駢り。先行も尙ほ好調を氣構へらる。

9 月 15 日 發信 先週來の磅爲替の暴落は市況に惡影響を與へ取引薄と相成り申候 共販協定値段には變化なく次の通りに保合ひ居候

	Export	Inland
Bars (base)	£ 3—0—0	fr. 535'00
Angles "	3—0—0	535'00
Joist N. S.	2—15—0	535'00
" B. S.	2—16—6	550'00
Hoops	3—15—0	675'00
Blooms	2—5—0	410'00
Billettes	2—7—0	440'00
Sheetbars	2—8—0	470'00
Plates	4—1—0	675'00

尙英國向棒鋼は f. o. b. Antwerp 2—15—0 事實にて取引され居候 以上

9 月 23 日 發信

拜啓市況は不相變引續き磅度弗相場の下落の爲不安裡に終始し共販の c. i. f. price 中には廣汎に巨り引上を見申候 f. o. f. gold sterling の相場には變化御座なく候東洋市場に於ける本邦の優越的地位に對し近時歐洲メーカー間に寄々對策を秘議し居るとかの噂あり本日當地に歐洲製線業者聯合會催され議題に上りたる由に御座候

東西市況

東京市況

丸鋼 ベース物も 9 圓までは寔にスラスラと昇つて行つたが、愈々 9 圓が確實と云ふ處まで來た處が、東西共調子を合せた様に左顧右眈して、中々此關門以上に進展しない。さりとて無下に軟化する模様も無く全く峠に佇んで四方の景氣を打眺めて居る形である。此丸鋼の將來の動きが鋼材全般に重大な影響を及ぼす事を考へれば硬軟共持に慎重を要するものと思はれる。6mm 9mm も大阪の伸鐵が相當高値發表なると好轉による品掠れで堅調を傳へられ、中丸も品薄と云はれて昂騰し特に 100 以上の太丸は中丸に連れて 13 圓捌みを唱へられる様になつた。

角、平鋼 何時も丸鋼のお供を仰付かる角、平も此度こそは先陣を承つて突進し、角の 38 は云はずもがな 44、75 も 13 圓 50 錢と奔騰を告げ平も特に ㊦ サイズは強調を傳へられると云ふ珍らしい現象を見るに至つた。

型鋼 前旬の空氣で云ふと中山は 95、8 圓になれば保税物が緩和劑となつて低迷するであらうと豫想されたが、蓋を開けて見ると案外慾が手傳つて、もしし儲かつたらと遂に 10 圓の大關門を突破した、然るに、6、7 日頃より關西で神戸製鋼の 6×50 が買出されたと云ふ報と、大手筋が一寸弱腰を見せたとかの喧傳が東京へ入つた事が因を爲して、9 日頃は一寸行詰つた感を懷く様になつた、東京でも此處 300 吨内外の保税物が税濟されたと傳へられるが、此は實質上には大して影響はせないと云はれて居る、不等邊の共販寸法は鋼管のロールが少いので昂騰を續け溝は當所賣出の勢なかつたのを勘定して市中でも盛んに思惑の對象となつて居る模様で 50×100

が 13 圓以上と云ふ硬化振りである、工形は需要も少いが思惑も入らず落ち付きではあるが一步一底堅めしながら進展して居る。

鋼板 中板は他鋼材に先走って秋高相場を出した爲め、今日になつては特に目立つ程のものもないが、1 中板物は歐洲シンデケーの統制外に在る爲め、外注値段が 2 中板と逆鞘となり、僅かに關稅關係だけで 2 中板物より高値を維持すると云ふ状態であるが、市場には直接之が影響する程の力も無く、不相變底堅い商狀を續け 3/2 は思惑で買はれただけで消化力が之に添はざる爲め一寸呆り模様と云はれ、4/5 は長崎造船で各サイズ 500 枚位の發注があるとか噂されて、若干は大阪に引かれたと傳へられて居る。厚板は伸力遅々とはして居るが他に連れて今旬は 13 圓が底値迄伸びたと云はれて居る。

大 阪 市 況

丸 鋼 藍碧のこのごろの空に爆ぜ割れた石榴の實が、梢高く懸つてゐるのを見る時ほど、自然の放膽さに驚異と危険とのどつちやになつた感じを抱かせることはない。日光と微風との嘗めるやうな愛撫を見てすら、焦だたしさと嫉妬にも似た或るものを覚えるのもこの時である。どうかしてこれをもぎ取らうとする誘惑の押へきれなくなるのもこの時である。食欲の進むがまゝにまかせて失敗するのもこの時である。我鋼材市場も昨今では大いぶんど腹がすきかけて來たので自己の健康をも考慮せず暴飲暴食を敢てする向もある様子で従つて市中切揃品の賣行は良好であるようであるが定尺物は遅々として荷動きもなく全く變態的商狀を呈してゐるようである。

細丸は大阪伸鐵共販成立以來引續き堅調を失はず、9mm は先般來荷動き旺盛で伸鐵も安賣せざる處から氣配は小腰りと云はれ 12mm は最近エキストラもなく前者とほぼ同様の商狀を呈してゐる。ベース物は賣行弗々あり大口にて 8 圓 70 錢小口にて 9 圓を目標に賣買せられてゐる。中丸は共販よりの手當薄、輸入品の激減等のため相場は比較的カツチリしてゐる。太丸は他の丸鋼の好調に連れて幾分好轉した様子である。

むら雀稻の穂による亂れかな

角 鋼 角鋼は概して品薄にて殊に細物は伸鐵品の荷廻り不順なるため相場は 10 圓揃みを唱へられ 50 以上の物の氣配は區々ながら相場は 10 圓以上を唱へられ特に太物は 12 圓 50 錢以上に取引されてゐる。平鋼は伸鐵共販の賣出制限のため市中在庫少く相場はジリ高歩調にあると云はれてゐる。

型 鋼 小形アングルは昨年賣行良好なるためと、手當薄のため市中極端なる品掠れを現出し相場は 10 圓 7、80 錢見當と云はれてゐる。中形アングルは需要期入りと共に荷動き旺盛を極め共販よりのデリバリー不圓滑と相俟つて市場品不足を感じ相場は先旬來 3、50 錢方の急反撥を演じた模様で目先尙期待されてゐる。大型アングル、ジョイスト並にチャンネル等は最近建築方面よりの大量注文に接し異常な緊張を示してゐるようである。

鋼 板 1、2 中板は輸入激減に加へて共販よりの出廻り不順調なるため市中品不足となり従つて相場はジリ高歩調を辿つてゐる。反之厚板は在庫豊富にて且アウトサイダーよりの荷廻り順調なるため相場は頭重い。

線 材 製品の輸出は引續旺盛を極め共販並にアウトサイダーよりの出廻り不良と相俟つて市中在庫は漸減の有様にて従つて相場は手堅き含みて保合つてゐる。

鋳 力 板 外注品の入荷は一巡の態であるが何分にも爲替關係で市場は活氣に乏しい感あり。地方も 7、8 圓頃に相當仕入れてゐる

ので目下の處一齊に見送りの態度を持して居り従つて局面打開は早急にはゆくまいと見る筋もある。

販 賣 旬 報 第 245 號 昭和 8 年 10 月 21 日

製 鐵 所 販 賣 部

11、12 月 積 鉄 力 板 賣 出 協 議 會 一 据 置

月日場所 10 月 18 日 製鐵所東京出張所

出席者 4 社東西問屋及製鐵

議 事 11、12 月 積鉄力板賣出に關する件

1) 市況及希望等に付ての買手の提案

(イ) 市 況 市場荷売れにて先月に比し一層賣行惡し、市場在庫東西合して 12、3 萬函、普通 1 ケ月賣行 4、5 萬として本年中新規買附けの要なき状態なり

値段は賣手 170 封度 27 圓買手 26 圓 80 錢唱へ、100 封度賣手 14 圓 80 錢、買手 14 圓 60 錢唱へなり。

(ロ) 業者の業績 今日迄の業績は本年當初を除き大半業界不況を續け只日米爲替の關係にて米國品を取扱ひたるものが僅かに利益を見たるのみにて製鐵所品取扱ひに於ては損失勘定なり。

(ハ) 外註過多は現在の製鐵所の賣出數量にては防壓の方法なし以上實情よりして買手の希望次記の通り

値段 170 封度 26 圓 50 錢 100 封度 14 圓 30 錢

數量 外註思惑を幾分にも防壓の主旨にて可及的多量賣出の事但し目下製鐵所約 2 ケ月積遅れある爲め之以上積遅れぬ程度の賣出希望す。

2) 説 明 本年は例年に無く多量の輸入を見た、7 月迄は獨逸物、8 月以降は爲替關係により主として米國物の輸入を見、年内 8 萬噸に近い數量となるを豫想されて居る、一方製鐵所の生産も増加し結局 12、3 萬噸の供給となる模様である、然るに市場は此數量の割合には市況は軟化せざるも現在にては手持漸増の爲め利喰急ぎの状態となり、製鐵所製品は 3 月頃迄は比較的好調を續けたるも爾後に損失を續けて居る、其原因は勿論過大な輸入にあるも製鐵所の數量が之を統制する程の生産も無きことも其原因にて其點よりすれば輸入も已むを得ざる次第と思はるゝを以て單に今日の外注より見れば寧ろ値上げの必要ある程なるも以上の如き内地の事情を加味して前項通り値下げ願度し。數量に就ては成るべく多量の賣出しをなし之れに依り思惑の外注を阻止する様されたし。

3) 決 定 製鐵所としては當所の生産數量より見て決して外法を統制し得るものにあらざる事は自覺し居るを以て外注及買手提案の諸情況を綜合して据置きとして數量は買手の希望により如何様にもすべしとの提案をなし、結局値段は据置きとし數量は 400 噸と決定した。猶製鐵所の増産を氣構へて利喰急ぎの向きあるやに聞くも當所は來年 1 月より新工場が動くも最初は僅々 300 噸程度にてそれも市場向とは限らず然も來年秋に到つて初めて 3、4、000 噸の生産をなし得る状態なれば其點含み置かれたし。

4) 大判と小判 前月問題となりたる小判は自然發生が最大限 10 %位なるが、此販賣は如何にすべきやと謀りたるに買手側は小判は全く不必要との事なれば當所として別途に販賣することとした。

Quotation for Tin plate, Nov/Dec. shipment.

American make	100 lbs.	170 lbs.
Cif. price	G\$ 3.90	G\$ 7.31
Exch. @ 27-1/2	¥ 14.38	¥ 26.95
Int. (0.9%)	0.13	0.24
Duty	0.27	1.23
Changes	0.08	0.15

¥ 15.31 ¥ 28.56

English make	100 lbs.	170 lbs.
Cif. price	£ 0-18-6½	£ 1-15-4½
Exch. @ ½-⅞	¥ 15.75	¥ 30.05
Int. (1.3%)	0.21	0.39
Duty	0.72	1.22
Charges	0.08	0.15
	¥ 16.76	¥ 31.81

12 月積三S會賣出協議會—据置

月日場所 10 月 12 日 製鐵所東京出張所

出席者 三井、三菱、高島屋、日立及製鐵

議 事 12、月積珪素鋼板賣出に關する件

1) 値 段 外注 cost は 6 月以來一本調子に一向變らず、今月も前月同様にて只爲替の變化の爲め前月に比し若干の安値採算となる。前月の外注と建値との値開きを神聖なものとするれば今月は外注關係のみより見れば寧ろ若干の値下げを希望したきも、珪素鋼板は市場向鋼材と異なり實需家を對稱とするものにて、三S會の建値も 2 月以來全く動かさず平穩に推移し居るものなれば、強いて値下げすべきにあらざるを以て据置きにせられたしとの買手側希望あり、當所としては値鞘より考ふれば未だ値上げの餘地は殘され居るも、今月特に建値を動かす程の材料も無きを以て買手希望通り据置きと決定した。

(イ) 電動機用珪素鋼板 B 1 級

函入のもの 1 吨に付 金 305 圓 (据置)

裸バンド締のもの " 金 295 圓 (")

(ロ) 電動機用珪素鋼板 C 1 級

函入のもの 1 吨に付 金 325 圓 (据置)

(ハ) 電動機用珪素鋼板 D 1 級

函入のもの 1 吨に付 金 345 圓 (据置)

(ニ) 變壓器用珪素鋼板 T 1 級

函入のもの 1 吨に付 金 420 圓 (据置)

(ホ) 2 級品 2 割以内混入差支なし

2 級品の賣値は各々 1 級品賣値の金 30 圓引のこと

(ヘ) 珪素鋼板厚物は 1 級品は金 10 圓引 其他のものは各種共金 5 圓引のこと

2) 數 量 重工業の勃興に伴ふ需要増加を主因として近來珪素鋼板の消費増加し將來に對しても多大の望を繋け居る爲め今月は相當數量の申込を豫期され、當所も 9 月 15 日より第 2 薄板工場の設備増設に伴ひ能力も増加したるを以て 1,400—1,500 吨の受注を發表した。

3) 締 切 10 月 19 日

Latest current prices of Foreign Electrical Sheets

Tokyo, 11th October, 1933.

	English (Ex. ½-⅞)		American (Ex. 27-¾)			
	Stal'oy (T)	Special Lohys (B)	Apollo Special (T)	Artnco Trancor#2 (T)	U. S. Electrical (B)	
Cif per 2240lbs	£27-11-6	£21- 2-6	\$ 133.88	\$ 135.91	\$ 105.20	
Exchange	¥468.53	¥358.94	¥ 482.45	¥ 489.77	¥ 379.10	
Interest 1.3%	6.09	4.67	6.27	6.37	4.93	
Imp. Duty	6.77	6.77	6.77	6.77	6.77	
Landing Charges	1.10	1.10	1.10	1.10	1.10	
Per long ton	¥ 468.53	¥ 371.48	¥ 496.59	¥ 504.01	¥ 391.97	
Per 1000 kg	¥ 474.89	¥ 365.63	¥ 488.77	¥ 496.07	¥ 385.73	

普 鋼 會—据 置

月日場所 10 月 10 日 製鐵所東京出張所

出席者 特殊製鋼、三井、河合、近藤及製鐵

議 事 11 月及 12 月積普鋼賣出に關する件

外電に據れば別項の通り 156 圓 72 銭と可なりの高値を報ぜらるゝも、國産品は未だ外國品に比し使ひ馴れざる關係もあれば相當の値開きを必要とし、其他國內品にて 130 圓見當の安値品も彷徨し、在庫品も相當豊富なれば市場は否えざるを以て 5 圓下げ程度が買手の希望であつた。

然し當所製品は當然他社製品より優秀なるを以て、他社を標準とせず獨自の分野を構成する意味にて賣續められ度く從つて値段に就ても其點を考慮せられたしと云ふ製鐵所側の提言に對し、買手は市場にては御説の如く製品獨自の優秀を保持しあるは確實なるも、商品としては安からう悪からうにて民間のスマール、インゴットより製作したるもの横行し製品分野を侵害しあるも、さりとて製品がビレットより製作せずして民間製品に倣つてスマール、インゴットより製作するが如きは探らざる處故此點が販賣も製作も苦心する處にて、此點含み置かれたし、値段に關しては是非据置きとせられたしとの應酬あり結局希望通り据置きと決定した、猶製鐵所側希望として、普鋼會員は將來他製品を取扱はず當所品のみに限る様する積なるにより今より其心組にて販賣に當られたしと云ふに對し組合員は現在荷廻り不順調なるを以て已むを得ざるも將來は言ふ迄も無く製品のみ取扱ふ覺悟なりとの回答あり。

又普鋼は市場向鋼材と性質を異にするを以て建値は 2 ヶ月分にしたしと云ふ買手よりの希望あり將來は 2 ヶ月分とすることとした。

Harad Steel Bar C. 0.5-0.6

Oct. 9th, 1933.

Cif.	£ 7-15-0
Ex. @ ½-⅞	¥ 131.68
Duty	25.06
Charges	2.50
	¥ 159.25
	156.72 per 1,000 kgs.

11、12 月積堅板會賣出協議會—3 圓上げ

月日場所 10 月 10 日 製鐵所東京出張所

出席者 三井、岩井及製鐵

議 事 11、12 月積スコップ用鋼板賣出に關する件

1) 堅板會の記事は都合により暫く中絶して居たが、今月分より再び發表することとした。

2) 外注 cost は前月と同様なるも爲替關係にて僅かに安値採算となる、然し未だ建値との間に可なりの値鞘あり、中板の値上げ等より見ても値上げする可能性あるが買手は實需向なる故急激の値上げを避け、將來にも若干の餘裕を残す爲め 2 圓上げ程度を主張したるも賣手の意見も加味して 3 圓上げの次記に決定した。

スコップ用鋼板 176 圓(3 圓上げ)

3) 數量は前月通り 330 吨の賣出しとした。

Shovel Sheet

1'85mm x 4' x 8' Oct. 10th 1933

Cif.	£ 8-17-0
Ex. ½-⅞	¥ 150.35
Duty	32.01
Int.	1.95
Landing	1.10
Per G. T.	¥ 185.41
Per 1,000 kgs	¥ 182.48

12、1 月積縞鋼板賣出協議會—10 圓上げ

月日場所 10 月 11 日 製鐵所東京出張所

出席者 三井、安宅及製鐵

議 事 12、1 月積縞鋼板賣出に關する件

1) 値段と數量 綹鋼板に關する記録も都合により數次中止して居たが今回より掲載し得る運びとなつた。

別項入電を先月の發表値段と比較する時は、大幅の順轉を示じ、一方内地市場は品掠れにより、定尺 180 圓見當、耳付に至つては 200 圓以上を唱ふる状態となつた。買手希望は例によつて例の如く一應は据置であつた。

元來綹板は其數量の僅少なると、純然たる市場向品と稍趣きを異にするを以て遂々注意を怠り勝ちとなり、従つて不用の輸入まで誘ふに至るを以て今月は値段を規正すると共に數量的にも緩和する必要を認めらるゝを以て値段を 10 圓上げとすると同時に次記の通り前月 265 噸なりし賣出數量を増加した。

値 段 45 mm 140 圓(10圓上げ) 6 mm 137 圓(〃)
數 量 485 噸

2) 締 切 10 月 18 日

Chequered Plates

— Dec. Jan. shipment —

C. i. f.	£ 7-8-0
Exch. @ 1/2-1/2	¥ 125.73
Import duty	25.06
Charges and int.	2.50
L. T.	¥ 153.29
K. T.	¥ 150.87

12、1 月積賣出美板會一覽番物値下げ

月日場所 10 月 11 日 製鐵所東京出張所

出席者 三井、高島屋及製鐵

議 事 12、1 月積美裝鋼板賣出に關する件

1) 買手希望

1) 鶯の番物だけ相當値下げ願ひ度し

其の理由 (イ) 本年 3 月積より値上げ状態下記の通りにて番物を非常に値上げして居ると反對に、黑板の番物は其後可成り値下げして居るが鶯の番物は 1 圓も値下げせず今日に至る

今年 3 月積よりの番物の値上げは次の通りである。

第 1 回 15 圓 第 2 回 10 圓 第 3 回 5 圓 合計 30 圓

今年 3 月積より mm 物の 3 回に亘る値上げは

第 1 回 3 圓 第 2 回 3 圓 第 3 回 3 圓 合計 9 圓

9 月積より黑板番物の値下げに伴ひ鳩番物のみ値下げして居れども鶯の番物は値下げ行はれず、今日の状態を續ける中は黑板番物は鶯の番物との値開き非常に多き爲め、之に蠶食せらるゝ虞ある故此點考慮せられたし。

之に附加したる説明として元來⑤の美裝鋼板の獨自の生命は鶯印に在つて、他社の追隨を許さざる優秀のものにて 2 社も其趣旨の徹底に努め市場に於ても其品質は充分認知しあるも他の鋼板と餘りに値開を有する時は遂に是等安値物に代用せらるゝは已むを得ざる處にて、一方他社製品も大部市場に進出しある際なれば希望の通りせられたしと云ふことであつた。

當所としては鶯印は獨得の値段を以て其地歩を占むるが至當とは考ふるも、若し此主張を貫徹して値下げせざれば結局賣止めの外無きも斯くては徒に自己の販路を萎縮せしむる原因ともなれば今回は買手希望通り、他は据置とし鶯印番板のみ相當値下げを斷行した。

2) 締 切 10 月 20 日

12、1 月積小型山形共販賣出理事會—5 圓上げ

月日場所 10 月 16 日 製鐵所東京出張所

出席者 釜石、三井及製鐵

議 事 12、1 月積小型山形鋼賣出に關する件

1) 値 段 積出も兩所社共追々順調となり積遅れも能率の増進に伴ひ大方恢復の状態となり、結局現在に於ては釜石には積遅れ皆無にて、製鐵所に 400 餘噸を餘すのみとなつた。

在庫高は前月に比し 400 噸許り減少し 2 ケ月半位の手持となり市中値段も 8 圓を中心とした値上りを見たるを以て共販値段の値上げは覺悟しあるも大體 3 圓程度に留められたしとの買手希望あり。

環境の高値を参照し猶丸鋼値段及大阪方面の伸鐵の工業組合の強化等を加味し 5 圓程度の値上げが實際に則したるものなるべしとの意見の一致を見て次の通り決定した。

決 定 値 段

A 108 圓(5圓上げ) B 100 圓(〃) C 95 圓(〃)

2) 數 量 申込の状態を見たる上にて決定することとした。

3) 締 切 10 月 21 日

Small Size Equal Angles Quotations

Tokio, Oct. 16th, 1933.

Specification	Hamburg Tel.	Exch. @ 1/2-1/2
3/8" x 3/8" (3x20)	£ 6-19-3	¥ 143.19
3/8" x 1" (3x25)	6-9-9	135.27
1/2" x 1 1/4" (3x30)	6-5-0	131.32
1/2" x 1 1/2" (3x40)	6-14-6	139.23
3/8" x 1 1/4" (5x30)	6-5-0	131.32
3/8" x 1 1/2" (5x40)	6-0-3	127.36
1/2" x 1 1/4" (4x45)	6-0-3	127.36
1/2" x 1 1/2" (—)	6-0-3	127.36
1/2" x 1 3/4" (6x45)	6-0-3	127.36

11、12 月積線材共販賣出理事會—内地 2 圓上げ 輸出 据置

月日場所 10 月 19 日東京丸ノ内會館

出席者 神戸、製鐵及 5 社

議 事 11、12 月積線材賣出に關する件

1) 買手希望 9 月下旬に於て歐洲線材シンジケートが東洋向線材にリバート、シメデムを採り結局安値は 16-12-6 となるも共販値段に比すれば未だ相當高値を保つて居る、内地市場は製品の需要減退特に輸出向が不振なる爲め漸次落調を辿り、一般に沈滞を傳へられ居る際なれば製線業者として据置希望なるも、大勢より見て此沈滞状態を刺戟する意味より内地向に於て 2 圓値上げ輸出据置きとし數量は前月同様と云ふ 5 社側の希望開陳あり。

2) 理 事 會

(a) 値 段 買手側 2 圓上げの理由に就ては、觀察の角度により種々解釋せらるゝも、歸する處買手の説明通りの單純に刺戟材料と考ふるが妥當なるべしとの結論に到達し買手希望通り内地向のみ 2 圓上げの次記に決定した。

次・記 内地向 120 圓(2圓上げ) 輸出向 105 圓(据置)

(b) 數 量 先般の歐洲シンジケートの値下げに際し出來た外注數量は不明なるも、相當數量が成立せし事は事實なるを考ふれば共販としては、多量の賣出しをなすが理論なるも、内地市況及兩所社の生産状態よりすれば餘り多量を賣出すことも得ず、買手希望通り次記に決定した。

製 鐵 所 4,000 噸 神戸製鋼 5,000 噸 計 9,000 噸

猶内地及輸出向の振當も前月通り次の通りとした。

内地向 6,000 噸 輸出向 3,000 噸 計 9,000 噸

3) 締 切 線材は近來好調に連れ、當然申込を超過するものとして申込を受けず、直に割當てたるも今月は市場の趨勢等を見る材料

にも必要なれば 20 日に申込締切りとした。

Wire Rods

Exch. @ $\frac{1}{2}$, $\frac{3}{8}$	£ 6-12-6	
Interest & Cable 13%	¥ 112.07	
Landing Charge	1.46	
	90	
	¥ 114.43	per Long Ton
	112.62	per 1,000 Kgs
Duty	21.68	
	¥ 134.30	

ブラッセル齋藤囑託通信

10 月 1 日發信 今週は閑散ながら各品に對し買進を傳へ日本よりは幾分買衰へたれども薄板の入注ありたりと申居候相場下落の爲め cif の取極め値段に多少變化を見申候

10 月 15 日入電 市況相場變りなし。

東西市況—堅調不變

政局不安、世相不安、歐洲不安、貿易不安等々今にもキング・コングでも飛出し相な世界であるが、吾が鐵鋼界に關する限り、是等は決して惡材料でなく、むしろ中には反對に良い現象を誘致するものもありと見られて居り、旁々折柄の秋高相場に氣をよくしてゐるので市場には大局世情は、當分は大して響かず、今もなほ在庫減少外注減退、荷動持續と云ふ目先の材料が種となつて依然堅調を續けさせてゐる。が、何と云つても底に一洩れ何物かが支へてゐるに違ひないので、他の社會全般と同じやうに將來とは云はず、現在に於ても確たる信念を以て前後に切り抜ける事が出來ず、旁々締切間際の此頃なので、形勢觀望の態とはなつたが氣配は強調に相場は概して強合みでベース丸のグヅついてゐるのは悪い形相だが、御互に他を引き連れて揺り上げつゝ後へは退かぬ氣魄ありと云はれてゐる。

東京市況

丸鋼 大阪に於ける伸鐵の販賣統制確立、續いて東京にもチラリホリと伸鐵統制を囁かれてゐるとか、旁々ロット高値の事等強氣の材料が出揃つてゐるので伸鐵に安物の影無くて細丸引續き堅調 9mm も伸鐵の好調と物の入荷不足に是れ復駈りを傳へられてゐる。ベース丸は想像されてゐるメーカーの在庫に比して荷動動き爲め買進む氣力無く他鋼材の好調に引摺られて下げもやらず、どうやら保合つてゐるが經つて入用でも起らざる限り尙一段の伸力を引き引いて、市場今日の頭痛の種となつてゐると云はれてゐる。中丸は舶來物の氾濫も終息し、九州物も引受少く入用買も相當に有る處から例に依つて品薄觀にまがけられて 2、30 錢方上向き、太丸は商内少く平凡なる商狀ながら中丸堅調の餘惠を受けて値段は不相變 13 圓堀を唱へられてゐる。

角、平鋼 角、細物は伸鐵に出廻りの懸念があるのと取引僅少な物の爲め伸力は鈍いが全般的の好氣配に釣られ 9mm, 13mm, 15mm 共に多少の値鞘は問題とせず出たとこ勝負として一列一體に 10 圓 30 錢前後を唱へられ 19mm 以上は在庫少く駈り、就中 38mm, 44mm, 50mm, 75mm は不相變の品薄と生産費も高くつく處から 13 圓 50 錢方の高値を持續してゐる。平、は伸鐵の 6mm 厚が 10 圓 5、60 錢と硬化したので小型物總じてカツチリと云はれ 75mm 以上も賣行不振ながら、入荷不圓滑の爲め 11 圓 7、80 錢を唱へられるに至つた。

型鋼 小山形は伸鐵に安物なく荷廻もボツボツある折柄、當所サイズは市中在庫著しく減少したる爲め堅調、相場は總じて 11 圓以上となり 4×45 の如き 13 圓 50 錢堀の高値唱となつた。釜石

製品は出廻順調なる爲め不凍 10 圓乃至 11 圓方を唱へられてゐる中山型は外注も税済物は太形がつき鋼管の出廻りも順調ならずして在庫僅少となり、氣配良好なれ共茲許一般形勢觀望と云はれてゐる。大山形は仲間内の取引も終つたので通つた道を顧みて一息ついた態である。不等邊鋼管サイズの入荷順調ならず品不足勝にてカツチリ 50×75 も品薄の爲め 11 圓堀に上向き 100×150 は買疲れて保合と見られてゐる。溝形及び工形は大型物の入荷不順調に加へて思惑買あり、溝形の $\frac{3}{8}$ " × 3" × 6" 10mm × 9mm × 300mm 等 16 圓前後を唱へられるものも現れて異常に興奮し、昨秋の狂奔に似てゐるので本所の出方が注目の的となつてゐると云はれてゐる。

鋼板 16 は需要もあり市中在庫も漸減の一路を辿つてゐるので駈りと云はれ 23 は品薄以然として 16 を上廻り、32 もストツクは比較的多いが外注高き爲め賣手は自重し安物有れば買ひ集め度く氣配強合みと云はれ 45 は大阪方面に纏つた買物現れて高値を尙ほも買進める向もあるので相場は 14 圓堀を唱へられてゐる中板は總じて前旬より 1、20 錢方上向いたが外注値段まで來て茲許一般の態と云はれ厚板も好調一雨毎に芽がふくやうである。

大阪市況

丸鋼 空は琉璃色、けふこのごろは秋もいよいよ本格的となつた。野にハイキング、ピクニツクの快味も 12 分に味ひ得られる。こうした自然界には去年も今年も變りはないが我鐵鋼界は去年の秋と今年の秋とは大いにその趣きを異にしてゐるやうである。即ち昨年は實際に荷物が消化されたため相場も堅實味を帯びてゐたようであるが本年は何分にも實需筋は概して見送りの態度であるが、たゞ問屋の盤廻しのため相場は辛ふじて 90 圓臺を維持してゐるやうで換言すれば鐵鋼界をリードすべき管の丸鋼が反對に特殊他鋼材にリードされてゐるやうである。

細丸は需給のバランスがとれてゐるので比較的堅調と云はれ目先伸鐵も生産能率の關係其他ベース物との値鞘の關係等の爲め市中出廻りは極限されるものと見られ従つて相場はカツチリしてゐる。9mm は市場當所品の一手販賣の觀あり従つて相場も手堅い。12mm は賣出制限等のため市中品薄にて前旬來保合。ベース物は市中品豊富にて目先 90 圓臺割を豫想されてゐる。中丸は賣行やゝ良好なる所へ當所よりの荷廻り不順調なるため市中在庫は一部に偏在の様子で相場はジリ高歩調を辿つてゐるやうである。太丸は前旬と大差なきも 80mm の品掠れにて 14 圓堀みを唱へられてゐる。

變らぬを松の秋としてしぐれけり

角、平鋼 角鋼は市中在庫は少いが賣行も大してないので相場は他鋼材の動きに連れて上下してゐる。就中 32mm は品掠れにて 12 圓を唱へられてゐる。38mm は過日異常な相場を呈してゐたが當所よりの手當によりやゝ引弛みを見せてゐる。平鋼細物は手當薄のため相當な値頃を見せ、大形もの殊に 5" 以上のものは 11 圓見當を唱へられてゐる。

型鋼 小形アングルは伸鐵組合の統制其他當所品の積遅れのため市中ストック少い所へ陸軍々人用ベッド製作に相當纏つた數量が消化されたので、茲許氣配は駈りと云はれ、3mm 厚は 10 圓 80 錢を唱へられてゐる。5mm 厚は伸鐵品の出廻りはないが最近釜石よりの積出順調なるため相場は伸び悩みの態と云はれてゐる。中形アングルは最近保稅の積戻しが相當あつたらしく且つ東京方面へも相當積出されたので日本鋼管よりの出廻不順調と相俟つて市中品掠れとなり、従つて相場は高い。大形アングルは先づ可もなく不可もなしであらう。チャンネル竝にジョイストは盤廻し旺盛を極め相場は高

いが堅實味がない所からそろそろ警戒する向もある。

鋼板 16×3×6 は市中在庫豊富なため不冴。これに反し 16×4×8 は仲間同志の取引盛くなる爲め相場は高い。3.2mm は賣行良好で相場は別表の如く高い。厚板はアウトサイダーよりの荷廻り順調なため相場は頭重い。

線材 上向き歩調を辿つてゐたロードも四圍の事情から天井を打ち搗て利喰物の出現に氣配は茲許呆りと云はれ目先幾分の値下げはまぬかれまいと見られてゐる。

鐵力板 概して保合である。需要期入りと共に地方筋よりの引合弗々あるがこれらは皆小口のみで大口商内はさつぱり出来ぬようである。

販賣旬報 第246號 昭和8年11月1日
製鐵所販賣部

三軌會一据置

月日場所 10月14日 製鐵所東京出張所

出席者 三井、三菱、製鐵所

議事 重軌條賣出に關する件

河岸着外注値段は爲替關係に依り161圓弱となり前回よりも多少の値上りを見たるも需要は以然として尠く慾を言へば値下げ希望の氣運もあるとの事であつたが鋼材市況は秋高相場に強調を傳へられてゐるし外注も若干高値となつてゐるので値下げの理由なく据置が妥當であると云ふ事に一致し次記の通り決定した。

記 重軌條一般賣出値段 150圓 (据置)

Sunki-Kwai

Tokio, Oct. 14th, 1933.

Heavy Rails & Splice bars only

I.R.M.A. Price (average)

Cif. Japan	£ 8-5-0
Exch. @ 1/2-%	¥ 139.55
Interest 1%	1.40
Import duty	21.71
Landing chgs.	0.80
Per long ton	¥ 163.46
Per Kilo ton	¥ 160.88

12、1月積の先物の申込と引受 申込 3萬7,000 吨

大型物の將來に對しては市場一般寸毫も危懼の念を抱かず、連月の賣出制限は益々其信念を強固にし、賣行は思ふ程無きに不拘、手持の勘定を極度に僅少に見積つて買氣旺盛を極めて居る。

又實際の狀態としても市場在庫の總體の數量は餘り尠くはないが品種、寸法別に眺めれば大部偏在して不足のもの相當あるので之が一の主因を形成して居ることも慥かである。

本月は市場では當所の賣出數量の多少を最も氣に病んで居て1吨でも多く獲得しようと努めた結果其申込は最近としては新記録の3萬7,000 吨となつた。即ち前月の2萬8,000 吨、前々月2萬2,000 吨に比して格段の増加を示した。

引受けに就ては先物の外に臨時に已むを得ざる期近物、現物等があるので思ふ様には出せず遂に先物として4,000 吨程度になつたが猶此外に前述の様なものも相當市場へも出ることを思へば此邊が適當の様にも考へられる。引受概数は次の通りである。

大型	4型	2中	計
2,400 吨	1,000 吨	600 吨	4,000 吨

11、12月積先物の引受概数は以前に掲記したが其工場別引受高は次表の通りである。

12、1月積先物申込高

揚品名	東京	大阪	名古屋	其他	合計
角鋼	330	350	—	38	718
平鋼	110	150	—	52	312
等山形	2,550	3,425	40	—	6,015
不溝工	1,165	1,655	—	—	2,820
形	8,610	7,680	185	289	16,764
形	4,165	6,015	150	111	10,441
合計	16,930	19,275	376	490	37,070

11、12月積先物引受高

工場別	1、2小形	3小形	1中	2中	1大	2、3大	4型	合計
角鋼	—	—	—	—	—	—	—	—
平鋼	—	—	—	—	—	—	—	—
等山形	—	—	—	—	—	243	30	264
不溝工	—	—	—	25	—	276	—	301
形	—	—	305	—	304	441	531	1,581
形	—	—	—	—	—	938	216	1,154
合計	—	—	305	25	304	1,898	777	3,300

12月積珪素鋼板の引受

今月は賣出數量を増加する事となつてゐたし實需も相當に有るので申込は前月よりB級が50 吨D級が200 吨T級が100 吨計350 吨増加した。D級品の増加率が多いのは發電機界が健全に發達して愈々高級品を使用するに至つたのと珍らしくも輸出向が出たからであると云はれてゐる。

寸法別には0.43mm は90 吨減少し0.5mm は不變、0.35mm が440 吨増加して増加數量を1 人占めにしてゐる。

是れは0.43mm と0.5mm は特殊サイズなので總體的に需要が起らなければ増加するものではないからであり0.35mm はマーケットの物であるから自然此の物の増加が著しくなるのであると云はれてゐる。今月特筆すべきはD級の中75 吨が輸出された事で珪素鋼板海外進出の第一歩として記念すべきであらう。

締切日 10月19日

11月積珪素鋼板申込及引受高

品名	B級	C級	D級	T級	計
0.35mm	365	—	305	435	1,105
0.43mm	240	—	—	—	240
0.5mm	20	—	—	—	20
計	625	—	305	435	1,365

12、1月積鋼板の割當—引受 485 吨

12、1月積から賣出しの記事を入れることとしたので其に對する引受も記載することとした。鋼板は元來數量も寔に僅少で取扱者も極限されて居るので、申込を取る程のことも無く、何時も頭から割當てることにして居る。

鋼板は過去の不況時代には實際持て餘しもので如何に少い數量も市場では到底消化し切れず、悪い物の代名詞の様に思はれて居たのに昨秋の狂騰以來急劇な需要の増加を見、甚だしい時は350—360 圓を呼んだが當所の注入と本年上半期の3,000 吨近い夥しい輸入によつて反落して沈静したのに近來再び反騰を見て最近では240—250 圓と云ふ高値を唱へられる様になつた。

何れは又何とか對策が講ぜられる事と思はれるが、12月1月積は不取敢別表の如く485 吨と前月の275 吨に比すれば200 吨許り増加した、猶臨時を加へれば今月は600 吨以上の引受となつたが之が市場に影響するは未だ相當の間であらう。

引受數量

	定尺	耳付	計
4、5mm	110 吨	55 吨	165 吨

6, 0 mm	160	100	260
8, 0 "	5	25	30
9, 0 "	15	15	30
計	290	195	485

12、1 月積厚板共販賣出理事會—2 圓上げ

月日場所 10 月 23 日 製鐵所東京出張所

出席者 浅野、川崎、東海及製鐵

議 事 12、1 月積厚板賣出に關する件

1) 買手希望 内地の状況は定尺 130 圓見當、輸入の cost は前月と變らず 140 圓を傳へ居る状態なるを以て強て値上げすると云はるれば之を拒否する理由は無きも穩健に据置きとせられたし。

2) 理事會 内地は前月より 3、4 圓の騰貴を示し、且中板の値段を考慮する時は相當値上げの理由はあるも、厚板は現在まで常に平靜の状態を辿り過去 5 ヶ月に亘り据置きを繼續したる程なるを以て急劇の値上げを避け先物だけ 2 圓上げ其他全部据置きの次記とすることに決定した。

次記 耳付 110 圓(2圓上げ) 定尺 118 圓(〃)

3) 數量 環境よりすれば多量の賣出しを必要とするも、能力關係により前月と同様 3,000 吨程度の賣出しとした。

4、締切 10 月 25 日

M. S. Plate

c. i. f.	18th Oct.
Ex. ½-¾	£ 6-15-0
Duty	¥ 114.69
Charges	25.06
	2.50
Per 1,016 kg	¥ 142.25
Per 1,000 kg	¥ 140.00

12、1 月積厚板共販締切理事會—申込 2 萬吨

月日場所 10 月 27 日 製鐵所東京出張所

出席者 浅野、東海及製鐵

議 事 12、1 月積厚板締切に關する件

1) 申 込 厚板の様に連月引受も樹で量つた様に決まり切つてしまうと申込むのも欠伸が出る見え、申込數量も判で捺した様に 1 萬 5,000 吨から 2 萬吨の間を彷徨し只市場の要求の強弱によつて 2、300 吨つゝ増したり減つたりするだけであるが、其 2、300 吨の増減が市場の硬軟を眺める唯一の材料となる、其意味から今月の 2 萬吨は前月より約 300 吨だけ増加して居るから市況も前月に比し若干好調と判斷しても決して誤りではない。

2) 引 受 これも前月と 1 吨も變らず 3,640 吨である。市場から見れば斯く毎月非常な制限をして居るに不抱、狂相場を出現せぬは市場に出る此數量以外纏つたのが直接共販から出て居るのと過去の輸入に緩和されて居ると云ふことは否めぬ事實と云ふことが出来る。

12、1 月積厚板申込及引受高

區別	東京	大阪	名古屋	其他	計
申込高	—	2,780	—	—	2,780
川崎	2,325	620	—	—	2,945
浅野	670	760	—	—	1,430
東海	3,435	5,280	30	523	9,268
製鐵	510	2,720	—	281	3,511
無指定	6,940	12,160	30	804	19,934
計					
引受高	—	—	3,240	—	3,240
耳付	—	—	400	—	400
定尺板	—	—	—	—	—
計	—	—	3,640	—	3,640

11、12 月積線材の申込と引受—申込合計 2 萬 3,000 吨

過去數ヶ月線材の申込を取らなかつたので、市場の趨勢の判斷材

料を缺いた爲め今月は初めて集めて見た、次記の線材の申込が多いか尠ないかと云ふことは斷定出来ぬが賣出しの 3 倍に近い數量は決して尠いものと云ふことは出来ぬ。寧ろ下り坂の今日に猶此申込があるのだから先月先々月あたりならば恐らく 5 萬吨に近い申込みはあつたらうと想像される。

然し線材は薄板に亞での水商賣だけに今月の好調必しも來月を保證するものではないから將來に就ては何時も充分な戒心を必要とするであらう。内地と輸出の振合を見ると、どうも輸出向には人氣はあるが是には云ふに云はれぬ色々の原因も含まれて居る模様で將來の研究問題として重要なものである。

引受は前月と同様内地 6,000 吨輸出 3,000 吨計 9,000 吨で思惑さへ無ければ相當賄つて行ける數量と思はれる。

11、12 月積線材申込及引受高

區別	申込高	引受高
先別	戸 製鐵所 計	戸 製鐵所 計
東京	2,397 3,414 5,811	828 1,280 2,108
大阪	6,563 2,296 8,859	2,472 1,095 3,567
名古屋	100 275 375	— 255 255
其他	— 150 150	— 70 70
計	9,060 6,135 15,195	3,300 2,700 6,000
輸出向	4,670 3,095 7,765	1,700 1,300 3,000

12、1 月積小型山形鋼の締切—申込 4,000 吨

締切りは 10 月 21 日であつた。

數量から云ふて小型山形は兎角市場から忘れ勝ちであるが、吹く風は決して此處を避ける理は無く、久しく沈淪して居た小山もどうやら硬風がそよそよと訪れて追々と上伸を見せて居る、其状態は申込に正直に現れて居る、即ち 8 月には 1,600 吨程度の申込が 9 月には 2,500 吨と増加し本月は遂に 4,000 吨と云ふ躍進振りである、之は勿論市場の現況を映したるものには相違ないが、他面鐵鋼界の將來に對する市場人の期待を裏書きするものと見ることが出来る。引受は例によつて工場關係で 1,200 吨だけ引受ることとした。

12、1 月積小型山形鋼申込高及引受高

區別	申込高	計引受高
地向	釜 石 製鐵所 計	釜 石 製鐵所 計
東京	270 1,105 1,375	228 241 469
大阪	605 1,725 2,330	291 300 591
名古屋	60 84 144	35 33 68
其他	57½ 60½ 118	46 26 72
計	992½ 2,974½ 3,967	600 600 1,200

ブラッセル齋藤囑託通信

10 月 29 日 入電 市況不變。

備考 8 月 11 日の入電以後相場の入電無し。

8 月 11 日入電次の如し。

棒 鋼	大型山形	中小型山形	工形(BS)
3—0—0	3—0—0	3—1—0	2—16—6
鋼 板	シートバー	ピレット	
(⅜")	(assorted)	(4")	
4—1—0	2—8—0	2—7—0	

10 月 6 日發信 今週の市況は季節に入りたるため幾分の入注荷動を傳へ居るも何分磅弗相場下落のため人氣恢復せず一方英國業界の活氣を帶び磅下落は輸出市場への進出を可能ならしめ又東洋各市場に於ける本邦品の活躍も亦一般大陸品の市場を狭少ならしむる等人氣は悲觀の傾向を看取せられ申候

東西市況

東京市況

丸 鋼 關東鋼材が 28 日にベース 3 圓値上げの 90 圓丁度の發表したのに刺戟され同日丸鋼組合も成る可く 93 圓以上に賣るうで

はないかと云ふ處に不徹底の申合せをした。理屈から云へば仕入れが高値となつたから賣値も値上げするのが當然ではあるが、丸鋼の環境と印象から云ふて断然値上げと頑張ることも出来ず微温的の申合せとなつたので、市價も此空氣を映して今の處は3圓は到底賣れもせず買ひもせないが、6圓以下が影を消した程度と見られて居る。中丸以上は前旬以來益々消化力好く、其原因も小工場の簇生に依る需要と見られ、先行も相當期待されて居る關係と、數量も適當な爲め近來思惑の對象と成る傾向があつて硬化の度を強めて居る。

角、平鋼 角、平は追々と市場向ではなく主として地方を相手とする地味な商品となつて來たのと數量も僅少で取扱者も極限されて居るので策動の餘地もなく進むも退くも洵に遅々として、今以て強保合を續けて居る、只角の38以上が品薄に陥り、13圓50錢見當に硬化を見せて居る。平も75以上が品薄に陥り。

型钢 型钢の中で思案投首は中山である。右せんか左せんか見る人々によつて皆異つた意見があるので或は一部で買進んで居る者もあるかと思ふと是以上伸びれば再び外注を誘ふであらう、否已に相當出來たと豫想して居る人もあると云ふ調子である。然し現状としては此相場は底堅いと云ふことは一致して居る。不等邊は共販寸法も鋼管のロールが急がしいと云はれて上伸し、其他も陥り、溝工に就ては近來の需要が工場の建増しとか倉庫の増築とか云ふ程度で主として溝形を使用されるので型钢中では溝形が賣行良好で又値段も堅調である、將來橋梁とか三階以上の建築が増加すれば工形も相當硬化するものと思はれるが現在は値段の割には動かないと云はれ大阪も兩3日前より一寸頭打ちを傳へられて居る。

鋼板 萬年強氣の中板は末だ一向崩れる模様が無い處か1'6×3×6が影を潜めたかと思へば4×8が躍り、何時の間にやら45が擡頭すると云ふ様に環の如く廻れど端なく次々と好調を傳へられて居る。即ち1'6の4×8は大阪程は氣を持つて居らぬが可なりの硬化を傳へ2'3は17圓50錢を動かず、3'2も堅調を持續し4'5は4×8の采りの外は強保合を傳へられて居る、厚板も突飛な値段は出ないが一步一步足許を堅めて擡頭の氣勢と見られて居る。

大阪市況

丸鋼 獨逸の國際聯盟並に軍縮會議脱退、米露國交の接近等々世界の前途はまことに混沌たり、凡そ時間に果しなき以上、そこに何物かの産れいづべきは豫想せねばなるまい。けれども豫想は所謂豫想であつてそれが當るか當らぬかはその時が來なければ分らぬ。従つて昨今の如き混沌の世の中に於ては何事を爲すにも大局に眼をつけ慎重にせねばなるまい。我鐵鋼界も相場表の上で見ればいかにも活況を呈してゐるかの如くであるがこれは實需の擡頭によるものではなく主として一部思惑分子の策動によつて相場が吊上げられたやうで従つて餘程自重が肝要と見られてゐる。要するに昨今の氣配は悪い方ではないが兎に角聲程でもないといふことは事實であるやうである。

細丸は最近ハンペー方面よりの引合盛んにて市中品薄と相俟つて相場は先旬來3、50錢方反騰振りを見せてゐる。9mmは市中在庫は少い方ではないが賣行比較的良好にて過日當所の値上發表にて氣配は陥りと云はれてゐる。12mmは荷動き良好なるため市中品薄に目下賣手は強腰のやうである。ベース物は荷動き良好なる順次手當あり従つて相場は先旬來9圓と變らぬがこゝらが天井と見られ先行幾分警戒氣味と云はれてゐる。中丸は外註品、國産品共に品薄に依り高値を唱へられてゐる。太丸は市中在庫は普通で氣配は強合保合。

山雀の藝をつくして老いにけり

角、平鋼 角鋼は概して品薄を傳へられ殊に16mm以上のものは極端なる品薄に陥りて38mm 17圓44mm、55mm、65mm等は14圓カッチリを唱へられてゐる。平鋼は當所よりの廻り不順調に加へて伸鐵品の手當もなく市中相場は高い。就中75mm幅以上のものは民間メーカーよりの荷廻りなきため11圓と目立つて高いやうである。

型钢 小形アングルは需要期入りと共に荷動き旺盛を極め手當薄の所から市中極端なる品薄となり3mm等は11圓50錢と光つてゐる。尙目先相當期待されてゐる。中形アングルは共販よりの注入少くHアウトサイダーよりも手當なきため相場は遂に10圓臺据えとなつた。大形アングルも亦市中品薄のため相場は別表の如く12圓カッチリと云はれてゐる。チャンネル並にデョイストは荷動きは捗々しからざるも市中品皆無とあつて僅少の註文にあつても相場は敏感に動くやうである。

鋼板 1、2中板は荷動き宜しく現在の當所並に民間メーカーよりの手當にては間に合はぬと云はれ従つて市中相場は昂騰の一途を辿つてゐる。厚板は大口注文は直接メーカーへ發してゐるやうで間屋筋では目下小口商内弗々といつた程度である。

線材 先旬來132-3圓といふ突飛な相場を唱へられてゐたが實勢には抗し得ず所謂行過ぎの反動として一舉に6、7圓方の暴落を示すに至つた。然し釘等の製品の輸出狀勢からして目先これ以上の値下げはあるまいと見られてゐる。

鋳力板 對米爲替の不安のため市中相場は浮動狀態を續け従つて需要家は手の出しようがなく當用買でお茶を濁してゐる。市中在庫は漸増の態と云はれてゐる。

10月中の日誌

- 2日 産業合理局顧問會議を開き日本製鐵會社の二重組織制に關し審議す。
- 3日 本日入電外注cif次の如し(爲替1志2片16分ノ3)
Bar Base 5-10-3 Round 9mm 6-1-6 Angle
Base 5-10-3 Angle Large 5-10-3 Joist 5-4
-9 Channel 6"×3" 5-15-0 Channelmm size
5-5-6 Plate Base 7-0-0
Plate 32mm 7-12-0 Plate 23mm 7-2-0 Plate
16mm 7-6-0
- 4日 大藏省發表に依れば9月中の鐵の輸入は1,112萬5,000圓にして1月以後の累計は前年より5,793萬5,000圓の増加と。
- 6日 9月中の三港鋼材輸入は1萬6,600噸、前月より8,700噸減少。

○濠洲は對英關稅を引下げ對日爲替ダンピング稅附加の豫定

- 7日 製鐵所先物協議會開催12、1月積は2圓上げの高値新記録となる。

○12、1月積9mmは86圓中丸は105圓何れも3圓上げと決定。

○丸鋼共販組合の引受數量は關東1萬5,600噸、關西1萬900噸計2萬6,500噸値段は87圓。

○日本製鐵會社設立特別委員會開催。會社組織の全般に亘り協議され次の如く意見の一致を見る。

- (1) 議決機關、執行機關の二重制度とす。(2) 會社の代表權は會長、社長に賦與す。(3) 決算期は年1回とす。

○東西市況飛躍一齊に上放る。

9 日 ジュネーブに於て軍縮幹部會再開さる。

○ソヴェト外務委員會は「日本の北鐵占領計畫」と云ふ怪文書を公表し爲に日露國交に暗雲漂ふ。

○12、1、2 月積中板共販賣出値段は 1 中板 2 圓上げ 2 中板 4 圓上げ。

○11、12、1 月積中型山形鋼賣出値段は 4 圓上げの等邊 94 圓不等邊 95 圓。

10 日 本日の外注値段は前回入電 (3 日) と同じ。

○11、12 月積普鋼賣出値段は据置。

○11、12 月積堅板賣出値段は 3 圓上げ。

11 日 製鐵所洞岡第 2 銻鐵爐火入式舉行さる。

○12、1 月積稿板賣出値段は 10 圓上げ。

○12、1 月積美板賣出値段は爲替物値下げ他は据置。

12 日 12 月積砒素鋼板の賣出値段は据置。

14 日 通商審議會の初會合開かれ吾が對外貿易の針路決定に關し評定す。

○米貨の急騰に對米爲替大幅の低落を來し正金はアクセプタンス、レートは 26 弗 $\frac{7}{8}$ に引下ぐ。

○鋼管株 2 圓高の 125 圓と新高値となる。

○獨逸突如國際聯盟及び軍縮會議脫退を聲明す。

15 日 獨逸の脫退に依る歐洲國際情勢の變革豫想を折込み新東、郵船、造船、軍需、鐵鋼株一齊に奔騰鋼管 130 圓東洋製鐵 21 圓 40 錢戸畑 85 圓 20 錢製鋼 63 圓 40 錢。

16 日 正金アクセプタンス、レートは對米 26 弗 $\frac{7}{8}$ 對英 1 志 2 片 $\frac{7}{8}$ 對獨は $\frac{7}{4}$ マーク引上げて 77 マークとなる。

17 日 中山製鋼も鋼管生産の計畫ありと云はる。

○本日入電外注値段次の通り (爲替 1 志 2 片 $\frac{7}{8}$)

Bare Base 5-10-6
Angle Base 5-10-6
Plate Base 7-0-0

18 日 市況は丸鋼ベースに出足鈍き嫌あれど他鋼材堅調不變。

○スチール株 4 月 18 日以来の安値 37 弗 $\frac{7}{8}$ となる。

○米國鋼鐵工業生産率は前週の 4 割 4 分に對し 3 割 9 分に減ず。

○11、12 月積鐵力板賣出値段は 170 封度 26 圓 50 錢 100 封度 14 圓 30 錢の据置。

19 日 本年の銻鐵需要は前年より約 5 割を激増、100 萬噸を突

破するものと見らる。

○11、12 月積線材賣出値段は内地向 2 圓上げ輸出向据置。

22 日 建設費 500 萬弗乃至 1,000 萬弗を以て廣東に米系製鋼所設立の計畫ありと。

23 日 米政府は新産金法を活用し近く金の買上斷行を聲明し爲にニューヨーク財界躍る。

24 日 赤字補填策に敗れ佛國內閣遂に倒る。フランス貨急落す
○本日入電の外注値段 cif は不變なれ共爲替の昂騰により河岸着に於て 1 圓 50 錢乃至 2 圓安となる。

25 日 對米爲替急騰本日は 28 弗 $\frac{3}{8}$ となる。

○米穀公定價格は標準最高 30 圓 50 錢最低 23 圓 70 錢に決定す。

○米國臨時財務當局は産金の買上價格を 31 弗 36 仙と發表す

○製鐵評價審査の特別委員會組織さる。

28 日 鋼材市況は一段落、新材料待の態と云はる。

10 月 中 爲 替 相 場

區 月 日	對米	對英	區 月 日	對米	對英
10. 2	27- $\frac{7}{8}$	$\frac{1}{2}$ - $\frac{1}{8}$	10. 20	23- $\frac{3}{4}$	"
3	28-0	"	21	"	"
4	"	"	22	"	"
5	"	"	23	"	"
6	27- $\frac{7}{8}$	"	24	27- $\frac{3}{8}$	$\frac{1}{2}$ - $\frac{1}{4}$
7	"	"	25	28- $\frac{3}{8}$	"
8	"	"	26	28- $\frac{1}{2}$	"
9	27- $\frac{5}{8}$	"	27	28- $\frac{1}{2}$	"
10	"	"	28	27- $\frac{7}{8}$	"
11	"	"	29	"	"
12	27- $\frac{1}{2}$	"	30	"	"
13	"	"	31	28- $\frac{1}{4}$	"
14	26- $\frac{3}{4}$	"			
15	26- $\frac{1}{2}$	"			
16	26- $\frac{1}{8}$	"			
17	27-0	"			
18	26- $\frac{1}{2}$	"			

電話番號變更御通知

去る 10 月 16 日より當所電話番號次の通り變更致候間此段御通知申上候

記

新 番 號	舊 番 號
銀座(57) 5651 番	銀座(57) 0396 番
同 5652 番	同 0397 番
同 5653 番(夜間宿直用)	同 3700 番
同 5654 番(同)	同 5041 番
同 (長) 5655 番	同 0792 番

昭和8年9月中三港鋼材輸入數量表

(單位噸)

品 種	神 戸	大 阪	横 濱	9 月 計	前 月 計	本年累計	前 年 同期累計
丸角平 等不 湛工 鋼	245 45 199 11 142 187 74 798	682 45 548 1,351 5 59 — 1,118	399 42 406 155 17 123 3 1,607	1,326 132 1,153 1,517 164 374 77 3,523	3,720 254 1,126 3,012 515 440 164 6,562	27,390 3,589 12,855 22,035 3,724 2,511 450 67,357	6,216 1,223 4,709 671 541 279 607 6,116
鋼 鋼 山 山 形 形 板(0.7mm超) " (0.7mm以下)	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —	— — — — — — — —
鋼 鋼 力 力 材 材 管 管 他 他	472 25 410 465 5 621	1,457 329 130 32 62 143	2,573 9 542 — 472 589	4,502 363 1,082 497 539 1,353	5,959 200 1,032 — 573 1,806	49,915 1,730 21,801 2,123 5,010 12,148	44,472 2,968 16,148 8,999 4,747 6,696
計	3,699	5,990	6,948	16,637	25,384	235,129	115,017
硫 石 ナ ク	4,228 — 5	— — 36	1,119 43 78	5,347 43 119	30,483 41 25	69,638 99 2,709 1,367	84,048 152 2,602 572

東京大阪市中相場

(大阪 上 10月5日 中 10月16日 下 10月24日)
(東京 上 10月9日 中 10月18日 下 10月28日)

寸 法	10月上旬		10月中旬		10月下旬	
	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪
丸 鋼						
6mm	10.70	10.00	10.80	10.50	11.00	10.50
9	9.40	9.40	9.50	9.50	9.50	9.50
12	9.20	"	9.20	9.40	9.30	"
19	9.00	9.00	9.00	"	"	9.00
25	"	"	"	9.00	"	"
50	12.00	12.00	12.20	11.90	12.30	12.00
65	"	"	"	11.70	"	"

寸 法	10月上旬		10月中旬		10月下旬	
	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪
角 鋼						
9mm	10.30	9.70	10.30	10.20	10.60	10.30
12	10.00	9.60	"	"	10.40	"
15	"	9.40	"	10.00	"	"
19	11.00	10.50	11.30	11.40	11.00	12.00
33	13.50	14.00	13.50	15.00	13.80	17.00

寸 法	10月上旬		10月中旬		10月下旬	
	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪
平 鋼						
mm mm						
6×38	9.80	10.50	10.00	10.20	10.00	10.50
6×50	9.90	"	"	10.40	"	"
6×75	11.50	10.80	11.70	11.00	11.70	11.00
9×100	"	"	11.80	"	12.00	"
12×100	"	"	11.70	"	11.70	"

寸 法	10月上旬		10月中旬		10月下旬	
	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪
等 邊 山 形 鋼						
mm mm mm						
6×50×50	10.30	10.00	10.30	10.70	10.50	10.60
6×65×65	10.20	"	"	10.60	10.40	"
9×75×75	10.40	"	"	10.50	"	"
9×130×130	11.70	11.50	11.80	11.60	11.80	12.00
12×130×130	"	"	"	11.50	"	"
15×150×150	"	"	"	12.00	12.00	"

寸 法	10月上旬		10月中旬		10月下旬	
	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪
不 等 邊 山 形 鋼						
mm mm mm						
10×50×75	10.40	11.00	11.10	10.80	11.30	11.00
10×75×100	10.70	10.30	10.80	11.50	11.00	"
10×90×125	"	10.70	"	"	"	"
9×100×150	11.90	11.50	11.90	11.00	12.00	12.00
12×100×150	"	"	"	12.30	"	"

寸 法	10月上旬		10月中旬		10月下旬	
	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪
溝 形 鋼						
mm mm mm						
5×50×100	13.20	12.00	14.00	13.50	14.30	14.00
6×65×125	13.50	12.80	"	"	14.50	"
3/8×3"×6"	15.00	12.80	15.80	15.00	15.50	15.50
3/8×3×8	12.50	11.70	12.90	14.00	13.20	14.00
9×90×250	13.50	12.50	14.30	14.50	14.50	15.50
10×90×300	"	"	16.20	15.00	16.20	16.50

寸 法	10月上旬		10月中旬		10月下旬	
	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪
工 形 鋼						
mm mm mm						
5.5×75×150	12.00	11.50	12.50	12.80	12.50	12.50
7×100×200	11.80	11.20	12.10	12.70	12.20	11.50
9×150×300	12.00	12.00	12.50	12.50	12.80	12.50
12×150×350	"	11.00	"	12.00	"	11.00
10×125×250	"	11.50	"	13.00	12.70	12.50

寸 法	10月上旬		10月中旬		10月下旬	
	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪
鋼 板						
mm						
1.6×3'×6'	15.30	15.50	15.40	15.20	15.80	15.80
1.6×4×8	16.50	16.00	16.70	16.70	16.80	16.80
3.2×4×8	14.70	14.90	14.80	15.20	15.00	15.00
3.2×5×10	15.30	15.30	15.40	15.60	15.70	15.70
6.0×4×8	13.50	14.00	13.80	14.00	13.80	13.80
6.0×5×10	13.70	14.30	13.90	14.20	14.00	14.00
9.0×4×8	13.30	13.00	13.80	13.00	13.80	13.80
9.0×5×10	"	"	"	"	"	"

寸 法	10月上旬		10月中旬		10月下旬	
	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪
薄 鋼 板 (13 枚)						
英 川 八 崎 幡	62'	65.5'	61'	63'	61'	64.5'
	62'	65.5'	61'	63'	61'	64.5'

寸 法	10月上旬		10月中旬		10月下旬	
	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪
鋼 力 板						
米 {170lbs	27.30	27.00	27.30	27.00	26.80	26.90
{100	15.00	14.60	15.00	14.50	14.70	15.00
英 {170	26.50	26.40	26.50	26.30	26.20	26.40
{100	14.00	14.50	14.00	14.40	14.00	14.50
八 幡 {170	27.00	26.60	27.00	26.70	26.50	26.50
{100	14.80	14.90	14.80	14.80	14.50	14.80

寸 法	10月上旬		10月中旬		10月下旬	
	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪
線 材						
No. #	127.00	129.00	126.00	127.00	126.00	126.00

備 考 單位 100kg につき (置揚値段)、但し薄板は 1 枚當り。線材は吨當り。鋼力板は 1 箱當り。

昭和8年7月中國別輸入數量表

(單位噸)

品 種	英	佛	獨	白	塊	和	典	合	關	印	其他	計	本 年 計
條及竿鐵(丸、角及平形にして徑邊又は幅 15mmを超えざるもの)	13	—	486	53	1	20	25	15	—	—	1	614	4,396
〃 (丸、角、平 の も の 其 他)	705	5	4,906	526	105	313	99	54	—	17	250	6,980	24,989
〃 (テ ー 形 及 ア ン グ ル 形)	101	309	3,843	882	—	—	—	22	—	—	775	5,932	16,830
〃 (其 他)	32	—	1,111	108	—	—	20	44	—	—	25	1,340	7,166
レ ー ル	—	—	—	35	—	—	—	504	—	88	13	640	1,249
フ イ ツ シ ュ、 プ レ ー ト	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	25
ワイヤーロッド(巻きたるものにして径 5mmを超えざるもの)	—	—	—	—	—	—	4	—	—	—	—	4	5
〃 (巻きたるもの其他)	51	130	549	76	5	—	83	661	—	—	—	1,555	28,699
鐵 板(金屬を鍍せざるものにして厚 0.7mmを超えざる珪素鋼板)	10	—	102	—	—	—	—	—	—	—	—	112	946
〃 (金屬を鍍せざるものにして厚 0.7mmを超えざるもの其他)	20	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20	1,151
〃 (金屬を鍍せざるものにして厚 3mmを超えざるもの)	15	138	1,945	549	74	—	33	—	—	—	237	2,991	11,153
〃 (金屬を鍍せざるもの其他)	916	—	7,845	2,829	30	18	2	64	—	38	197	11,939	54,180
〃 (錫鍍したるもの)(葉鐵及葉鋼)	1,474	116	2,151	—	—	28	—	1,053	—	—	412	5,234	53,096
〃 (亞鉛鍍したるもの)	—	—	—	81	—	—	—	1	—	—	5	87	534
〃 (其他卑金屬を鍍したるもの)	—	—	—	101	—	—	—	—	—	—	—	101	102
鐵 線	15	—	12	—	7	—	22	111	—	—	1	168	770
リ ー ド、 ワ イ ヤ ー	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鐵 リ ボ ン	58	73	93	104	38	—	37	5	—	—	63	471	2,887
帶 (箍 鐵)	107	1,152	1,421	10,137	4	7	—	13	5	—	613	13,459	64,886
パ ラ ゴ ン、 ワ イ ヤ ー	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	73
線 索	7	—	5	—	—	—	—	—	—	—	—	12	53
燃 合 線	—	—	—	—	—	—	—	6	—	—	—	6	57
バーブド、ツウイスト、ワイヤー	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
鐵 筒 及 管	185	—	169	—	—	—	8	233	2	—	83	780	4,721
特 殊 鋼 (税 表 一)	75	—	192	—	374	—	214	3	15	—	51	924	4,173
〃 (税 表 二)	1	—	25	—	4	—	4	—	—	—	—	34	140
鐵 道 車 輛 用 車 輪 及 車 軸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鐵 道 車 輛 用 タ イ ヤ ー	—	50	—	—	—	—	—	7	—	—	—	57	117
鐵 道 車 輛 用 ス プ リ ン グ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	3,886	1,973	24,855	15,481	642	386	551	2,796	22	143	2,726	53,461	282,400
フ エ ロ、 マ ン ガ ニ ー ス	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	2	4	9
フエロシロン及シリコスピーゲルアイゼン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
其 他 の 不 可 鍛 成 鐵 合 金	—	—	28	—	—	—	—	—	—	—	—	28	341
シ ー ト バ ー (ティンバーを含む)	—	—	5,056	385	—	—	—	—	—	121	—	5,562	35,026
インゴット、ブルーム、ピレット及スラップ	328	21	5,435	512	—	—	—	22	3	26	17	6,364	34,190
ケツグスチール及パンプスチール	—	—	—	—	—	—	33	—	—	—	—	33	183
其 他 の 塊 及 錠 鐵	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
合 計	329	21	10,520	897	—	—	33	22	3	147	19	11,991	69,751
銑 鐵	508	—	—	—	—	—	4,002	—	—	17,153	25,629	47,292	399,094
屑 及 故 鐵	11,061	6	957	4,267	—	364	—	54,381	56	13,243	11,729	96,064	553,604

昭和8年9月中神戸、大阪、横濱三港輸入鋼材品種寸法別數量表

(其の1) (単位吨)

寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數
棒鋼の部								鋼板の部					
丸鋼		8	23	2	47	72mm	510	150×75	1	鋼板(0.7mm超)		0.42	26
9mm	150	9	3	2 1/4	2	76	5	165×75	8			0.44	47
12	50	0.38"	1	2 1/2	80	77	31	280×90	78			0.46	38
16	99	其他	108	3	59	79	32	300×90	55			0.48	10
19	100	計	1,241	3 1/2	34	80	15	計	143	1/16"	277	0.50	43
22	51	造船材料		3 3/4	1	82	20	不等山計	165	3/32"	64	0.52	41
25	51	9mm	1	4	60	83	10	溝形鋼		1/8"	341	0.54	27
55	5	12	2	4 1/2	2	91	10	6'×2 1/2"	59	3/16"	363	0.55	62
60	2	15	17	5	9	92	113	寸法不明	89	1/4"	3	0.56	4
65	9	3/32"	7	6	9	98	4	計	148	1/2"	462	0.58	15
66	8	3/16"	31	其他	27	100	40	造船材料		3/8"	4	0.60	19
70	3	3/8"	6	計	1,112	102	20	20	2	B.W.G.No.	2	0.62	2
75	3	1/2"	1	造船材料		104	28	19	1	20	2	0.66	7
80	7	3/4"	1	2 1/2"	2	108	10	17	10	19	1	0.70	1
85	2	1 1/2"	1	50mm	2	110	10	18	15	18	15	0.74	4
90	24	2"	1	65	2	120	25	17	10	17	10	0.75	1
95	7	2 1/2"	14	75	24	130	20	16	22	16	22	0.90	6
100	2	19	14	90	2	142	506	15	91	15 1/2	4	計	1,247
105	3	22	2	100	7	150	20	230×95	12	14	11	0.7mm超	3,522
110	2	28	1	125	2	160	10	260×90	12	13	16	計	
115	3	計	84	平鋼計	1,153	190	11	300×100	19	12	12	(鋼板0.7mm以下)	
125	3	丸鋼計	1,325			203	11	10'×4"	42	11	4	B.W.G.No.	
130	3	角鋼				リボン		17×4	122	1mm	3	30	29
140	3	3/16"	10			計	266	計	224	1 1/2	1	計	29
150	6	3/8"	10	フープ		半圓鋼		溝形計	372	1 5/8	5	電氣鐵板	
5/16"	2	3/4"	10	3/8"	6	計	45	工形鋼		1 7/8	20	0.014"	3
3/8"	1	25/64	1	1/2"	22	造船材料		mm mm		2	1	0.5	3
25/64	1	1 1/8"	8	3/4"	30	mm mm		75×75	3	2 3/8	20	計	6
1/2"	14	1 1/4"	9	7/8"	5	計	5,162	計	3	2 1/2	16	縞鋼板	
5/8"	13	1 1/2"	14	1	2	型鋼の部		造船材料		2 5/8	1	6mm	26
3/4"	26	1 3/4"	11	1 1/4"	4	等邊山形鋼		mm mm		3 1/2	154	8	10
13/16"	2	2"	18	1 1/2"	1	3"	8	160×19	74	5 5/8	1	9	31
7/8"	4	2 1/4"	3	1 3/4"	9	30mm	30	計	74	6	108	計	67
1	20	2 1/2"	10	2	9	40	96	造船材料		16	14	造船材料	
1 1/8"	1	3	10	2 1/4"	3	50	205	工形計	77	22	6	3/16"	7
1 1/4"	6	3 1/2"	5	3 1/8"	27	65	472	球山形鋼		28	32	1/4"	6
1 1/2"	43	4	5	3 1/4"	10	75	429	(造船材料)		其他	131	5/16"	36
1 3/8"	1	5 1/2"	2	3 3/8"	5	90	113	mm mm		計	2,275	3/8"	7
1 3/4"	29	計	130	3 1/2"	139	100	111	90×90	8	造船材料		1 1/2"	6
1 3/2"	1	平鋼		3 3/4"	34	計	1,464	100×90	2	1/8	10	6mm	7
1 1/2"	9	19mm	33	3 1/2"	41	造船材料		100×100	2	1/4	27	8	22
1 1/8"	7	22	25	3 3/8"	11	75mm	1	130×75	11	3/16	10	10	1
1 3/4"	9	25	36	3 7/8"	4	90	5	130×90	8	5/16	4	計	79
2	9	26	1	4 1/8"	48	130	8	150×75	70	3/8	2	縞板計	146
2 1/4"	14	30	3	4 1/4"	10	150	38	150×90	18	7/16	1	鉄力板	
2 3/8"	2	32	31	4 3/8"	15	計	52	165×75	6	6	103	lbs	
2 1/2"	17	38	10	5	5	等山計	1,516	180×75	45	8	100	170	923
2 3/4"	20	40	1	5 1/8"	15	不等邊山形鋼		180×90	50	9	111	100	456
3	20	44	10	5 3/8"	10	mm mm		200×75	97	13	100	sheets	
3 3/8"	1	50	20	5 1/2"	5	40×20	2	200×90	26	14	39	100	8
3 1/4"	13	65	71	6	1	60×40	1	230×90	196	16	2	90	9
3 3/8"	2	75	102	6 1/8"	5	90×75	5	250×90	139	19	7	80	17
3 3/2"	34	80	1	6 1/2"	5	150×100	14	260×90	22	22	20	70	6
3 3/8"	2	90	50	30	1	計	22	280×90	21	28	3	60	3
3 3/4"	19	95	1	48	31	造船材料		300×90	37	0.20"	2	50	2
4	30	100	31	50	15	mm mm		計	770	0.25	34	40	2
4 1/4"	1	3/8"	2	57	20	40×20	2	鋼矢板		0.26	15	mixed	77
4 1/2"	15	1/2"	13	60	35	60×40	1	計	497	0.28	7	oil size	1,733
5	35	3/4"	64	61	2	90×75	5	型鋼計	3,397	0.30	28	其他	1,265
5 1/4"	1	7/8"	55	64	40	150×100	14	條鋼計	8,559	0.32	36	計	4,501
5 1/2"	11	1	92	65	44	計	22			0.34	26	鋼板	8,204
5 3/4"	1	1 1/4"	60	66	11	造船材料				0.36	58		
6	44	1 1/2"	34	67	35	mm mm				0.38	45		
6 1/2"	3	1 3/4"	11	70	10	65×50	1			0.40	45		
7	16												
7 1/2"	7												

昭和 8 年 9 月中神戸、大阪、横濱三港輸入鋼材品種寸法別數量表

(其の 2) (單位噸)

寸 法	噸 數	寸 法	噸 數	寸 法	噸 數	寸 法	噸 數	寸 法	噸 數	寸 法	噸 數	寸 法	噸 數
軌條及附屬品の部		線 材 の 部		7	111	5¼	18	121	3	平	鋼	68	鋼材總計 19,503
軌 條		線 材		線材計 1,082		6¾	239	321	23	鋼	板	110	
70lbs Elevator用 其 他		B.W.G.No.		鋼 管 の 部		8½	1	其 他		計	其 他	47	鋼片・鋼塊
9 25 329		5 641		鋼 管		8¾	155	鋼管計 539		外	輪	670	フエロクム 他
軌附計 363		3 75		1 2		10¾	2	其 他 鋼材の部		計	車	55	19
		2 11		1½ 8		13	1	特 殊 鋼		計	軸	31	2,391
		1 101		2¾ 1		65mm	2	丸 鋼 409		其他鋼材計 756		32	ブルーム
		00 103		3¼ 8		33.5	2	角 鋼 36				956	ビレット
		5mm 10				56	1					32	ケツグス
						86	1						チ

昭和 8 年 9 月中當所品種別揚地別發送高

(單位噸)

分類		内地向														輸出向			合計	
		阪神		京濱		名古屋		其他		當所		計			滿洲	南洋	計			
		官廳	民間	官廳	民間	官廳	民間	官廳	民間	官廳	民間	官廳	民間	計						
品名	寸法	厚鋼板	6mm以上	760	2,312	1,778	1,521	4	142	2,307	66	—	61	4,849	4,102	8,951	—	—	—	8,951
中鋼板	1mm-6mm未滿	59	1,537	491	1,340	74	222	625	70	—	11	1,249	3,180	4,429	—	—	—	—	4,429	
薄鋼板	1mm未滿	—	1,677	4	1,085	1	—	26	1	—	70	31	2,833	2,864	—	—	—	—	2,864	
特殊鋼板	一括	3	151	—	97	—	—	90	—	—	9	93	257	350	—	—	—	—	350	
珪素鋼板	"	—	132	—	657	—	—	—	304	—	75	—	1,168	1,168	—	—	—	—	1,168	
鍍力板	"	—	675	—	1,616	—	21	30	26	—	211	30	2,549	2,579	45	—	45	—	2,624	
大形丸鋼	100mm超	—	25	50	170	4	—	37	—	—	7	91	202	293	—	—	—	—	293	
中形丸鋼	36mm超	10	382	70	518	66	50	178	52	—	49	324	1,051	1,375	—	—	—	—	1,375	
小形丸鋼	36mm以下	8	1,702	79	1,330	15	297	248	2	—	271	350	3,602	3,952	2,082	117	2,199	—	6,151	
大形角鋼	100mm超	8	33	23	337	34	3	16	—	—	—	81	373	454	—	—	—	—	454	
中形角鋼	36mm超	27	331	63	942	2	61	35	11	—	29	127	1,374	1,501	—	—	—	—	1,501	
小形角鋼	36mm以下	1	209	8	84	2	50	2	3	—	11	13	357	370	10	—	10	—	380	
中形平鋼	巾55mm超	3	214	171	240	—	16	70	26	—	4	244	500	744	71	—	71	—	815	
小形平鋼	巾55mm以下	—	443	25	300	—	121	15	20	—	9	40	893	933	—	—	—	—	933	
特殊形棒鋼	半丸、六角八分	—	33	—	—	—	—	—	—	—	—	—	33	33	—	—	—	—	33	
スケルブ	一括	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
大形山形鋼	等邊不等邊片100mm超	222	2,388	361	918	—	6	195	67	—	36	778	3,415	4,193	—	—	—	—	4,193	
中形山形鋼	" 50mm超	2	763	92	153	—	21	542	46	—	58	636	1,041	1,677	25	—	25	—	1,702	
小形山形鋼	" 50mm以下	—	290	108	230	1	188	56	9	—	136	165	853	1,018	—	—	—	—	1,018	
溝形鋼	一括	346	2,668	649	2,033	—	63	505	454	—	119	1,500	5,337	6,837	453	—	453	—	7,290	
工形鋼	"	24	1,142	48	648	—	5	206	30	—	42	278	1,867	2,145	11	—	11	—	2,156	
特殊型形鋼	球山 Z.T.	—	108	33	118	—	—	68	40	—	—	101	266	367	—	—	—	—	367	
鋼矢板	一括	—	26	—	124	—	17	—	57	—	187	—	411	411	—	—	—	—	411	
重軌條	22kg以上	3,323	1,144	5,803	474	—	—	5,720	963	—	121	14,846	2,699	17,545	5,273	—	5,273	—	22,818	
輕軌條	22kg未滿	—	1,368	—	802	—	—	9	974	—	132	9	3,276	3,285	—	—	—	—	3,285	
軌條附屬品	一括	190	40	176	54	—	—	351	333	—	11	717	438	1,155	480	—	480	—	1,635	
線材類	"	—	4,083	10	2,591	3	—	—	—	—	2,941	13	9,615	9,628	—	70	70	—	9,698	
販賣用鋼片	"	17	353	21	312	—	—	—	—	—	3,149	38	3,814	3,852	—	—	—	—	3,852	
販賣用鋼塊	"	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
販賣用シートバー	"	—	3,845	—	—	—	—	—	1,156	—	—	—	5,001	5,001	—	—	—	—	5,001	
外車軸及品	"	—	—	299	—	—	—	62	—	—	4	361	4	365	—	—	—	—	365	
鍛成品	"	—	591	9	4	20	—	—	—	—	—	23	595	618	58	—	58	—	676	
短尺鋼	"	—	98	—	131	—	233	—	—	195	52	195	514	709	—	—	—	—	709	
特殊鋼條鋼一括		—	—	—	224	—	—	—	—	—	—	—	224	224	—	—	—	—	224	
鋼材計		5,003	28,760	10,365	19,053	226	1,516	11,393	4,710	195	7,805	27,182	61,844	89,026	8,508	187	8,695	—	97,721	
銑鐵		—	1,615	—	—	—	—	—	200	—	—	—	1,825	1,825	—	—	—	—	1,825	
販賣用屑鋼		—	—	—	—	—	—	—	—	—	2,191	7	2,191	2,198	—	—	—	—	2,198	

昭和8年8月中國別輸入數量表

(單位 噸)

品 種	英	佛	獨	白	埃	和	典	合	關	印	其他	計	本 年 累 計
條及竿鐵(丸、角及平形にして徑邊又は幅 15mmを超えざるもの)	5	25	108	614	4	—	10	1	—	—	—	767	5,163
〃 (丸、角、平のもの其他)	127	193	1,537	1,376	73	—	46	37	—	7	319	3,715	28,704
〃 (テ - 形 ア ン グ ル 形)	138	203	1,033	430	—	13	—	1	—	—	661	2,529	19,359
〃 (其 他)	26	—	1,162	48	—	—	—	37	—	2	49	1,324	8,490
レ - ル	—	—	—	—	—	—	—	39	—	—	—	39	1,288
フィツシュ、プレート	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2	27
ワイヤーロード(巻きたるものにして徑 5mmを超えざるもの)	—	—	—	—	—	—	33	26	—	—	—	59	64
〃 (巻きたるもの其他)	—	—	102	203	—	—	33	1,346	—	—	62	1,746	30,445
鐵 板(金屬を鍍せざるものにして厚 0.7mmを超えざる珪素鋼板)	—	—	—	—	—	—	—	30	—	—	—	30	976
〃 (金屬を鍍せざるものにして厚 0.7mmを超えざるもの其他)	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17	1,168
〃 (金屬を鍍せざるものにして厚 3mmを超えざるもの)	23	—	231	5	—	—	23	—	—	—	189	501	11,654
〃 (金屬を鍍せざるもの其他)	649	7	2,626	435	5	46	1	8	—	38	206	4,021	58,201
〃 (錫鍍したるもの)(葉鐵及葉鋼)	752	—	1,254	15	30	—	—	2,727	—	—	66	4,844	57,940
〃 (亞鉛鍍したるもの)	—	—	—	19	—	—	—	—	—	—	6	25	559
〃 (其他卑金屬を鍍したるもの)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	102
鐵 線	13	—	22	1	6	—	6	29	—	—	—	77	847
リード、ワイヤー	—	—	20	83	—	—	—	—	—	—	—	103	103
鐵 リ ボ ン	30	1	71	—	21	—	29	—	—	—	64	216	3,103
帶 (箍 鐵)	89	—	505	7,359	—	—	—	16	5	—	579	8,553	73,439
パラゴン、ワイヤー	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	73
線 索	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	53
撚 合 線	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	57
バーブド、ツイスト、ワイヤー	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
鐵 筒 及 管	134	—	165	—	—	—	4	374	30	—	—	707	5,428
特 殊 鋼 (稅 表 一)	49	—	61	—	281	—	169	4	11	—	28	603	4,776
〃 (稅 表 二)	—	—	—	—	11	—	7	—	—	—	5	23	163
鐵道車輛用車輪及車軸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鐵道車輛用タイヤ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	117
鐵道車輛用スプリング	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	2,052	429	8,927	10,638	431	59	361	4,675	16	49	2,264	29,901	312,301
フェロ、マンガニース	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	10
フェロシリコン及シリコスビーゲルアイゼン	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
其他の不可鍛成鐵合金	30	—	57	—	—	—	—	1	—	—	—	88	429
シートバー(ティンバーを含む)	—	3,591	3,809	885	—	—	—	—	—	147	—	8,432	43,458
インゴット、ブルーム、ピレット及スラップ	202	976	1,039	1,037	—	—	—	68	—	10	25	3,357	37,547
ケツグスチール及バンプスチール	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	183
其他の塊及錠鐵	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
合 計	232	4,567	4,905	1,922	—	—	—	69	—	157	26	11,878	81,629
銑 鐵	101	—	—	—	—	—	1,000	—	450	17,894	28,793	48,238	447,332
屑 及 故 鐵	9,405	141	133	1,233	—	804	—	45,170	24	17,196	19,607	93,713	647,317

昭和8年9月中當所品種寸法別生産高 (單位噸) (其ノ1)

寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數	寸法	噸數						
棒鋼の部				中形角鋼				等邊中形山形鋼				球山形鋼							
小形丸鋼				mm				mm mm				mm mm							
9	4,861	38	27	60	28	200×75	8	20	77	綯厚鋼板				重軌條					
10	61	40	13	65	68	9"×3½"	283	21	1	mm				K					
11	5	44	16	70	369	計	291	22	212	6				30 3,613					
12	11	46	3	75	189	パイピングシート				8				37 5,306					
13	6	50	59	100	710	mm mm				119				40 5,643					
14	18	55	7	計	1,364	400×75				計				50 2,607					
15	58	60	25	等邊大形山形鋼				159				計		17,169					
16	266	65	320	mm				312				附屬品							
17	4	70	5	150				312				T.P50K用							
18	147	75	312	計				18,838				目板 8K用							
19	329	80	11	等邊計				34,571				9 36							
20	9	90	156	5,600				鋼板の部				30 2							
22	192	100	994	不等邊小形山形鋼				薄鋼板				40 1,037							
23	5	計	1,948	mm mm				sheets				スバイキ							
24	8	大形角鋼				50×35				11 31				トラック					
25	100	mm				計				7 18				ボールド					
26	5	110 12				不等邊中形山形鋼				B.W.G.No.				ナット					
27	1	120 55				mm mm				30 358				計					
28	42	125 253				65×50 119				計				1,718					
29	1	140 10				75×65 130				中鋼板				mm					
30	5	150 129				90×60 8				0.8 1				5 1					
31	3	計 459				4"×3½" 28				1.2 37				耳付中鋼板					
32	23	角鋼計 3,146				計 285				1.4 48				mm					
34	8	小形平鋼				不等邊大形山形鋼				1.5 12				耳付厚鋼板					
36	20	mm				mm mm				1.6 1,502				mm					
計	6,188	19 207				125×75 156				1.8 47				6 786					
中形丸鋼				22 271				125×90 768				1.85 486				7 21			
mm				25 399				計 924				2 180				8 430			
38	74	33 175				不等邊計 1,215				2.3 615				9 363					
40	50	38 13				溝形鋼				2.5 31				10 83					
42	15	44 2				mm mm				2.6 168				11 281					
44	24	50 18				75×40 237				2.9 199				12 386					
46	34	55 6				100×75 504				3 40				13 8					
48	8	計 1,091				150×75 1,182				3.2 802				14 71					
50	806	中形平鋼				200×80 995				3.5 59				15 1					
55	547	mm				250×90 830				4 293				16 431					
60	147	60 21				300×90 3,021				4.5 517				18 62					
65	581	65 27				7"×3½" 363				5 170				19 128					
70	158	70 32				計 9,544				5.5 36				20 44					
75	420	75 357				乙形鋼				5.7 16				21 3					
80	153	80 22				mm mm mm				計 5,443				22 37					
85	13	85 5				75×50×4 9				厚鋼板				25 99					
90	619	90 5				130×70×60 34				mm				28 18					
95	13	95 11				150×50×40 40				6 1,577				29 2					
100	506	3½" 11				150×80×70 50				6.5 1				30 3					
計	4,168	計 891				計 133				7 319				32 7					
大形丸鋼				平鋼計 1,982				丁形鋼				8 1,203				34 4			
mm				其他の棒鋼				mm mm				9 1,277				35 16			
105	5	引拔磨鋼 5				75×50×4 9				9.5 3				36 17					
110	7	踏釘材 21				130×70×60 34				10 978				38 18					
115	45	電氣爐鋼 1				150×50×40 40				11 11				39 20					
120	1	特殊鋼角 6				150×80×70 50				12 808				40 4					
125	2	持床用平鋼 53				計 133				12.5 2				42 1					
130	103	計 163				乙形鋼				13 95				計 3,347					
計	163	丸鋼計 10,519				mm mm mm				13.5 4				綯中鋼板					
小形角鋼				棒鋼計 15,733				75×50×4 9				mm				mm			
mm				型鋼の部				130×70×60 34				3 2				3			
12	236	等邊小形山形鋼				150×50×40 40				12.5 2				3.2 13					
16	213	mm				150×80×70 50				13 95				4.5 79					
19	121	30 133				計 133				13.5 4				5 1					
22	48	35 13				丁形鋼				14 319				計 99					
25	13	40 291				mm mm				15 54				綯厚鋼板					
26	2	45 67				1½"×1½" 71				16 490				mm					
28	9	50 286				計 71				17 3				3 6					
30	2	計 790				計 71				17.5 6				4.5 79					
32	92	其他の部				其他の部				18 161				5 1					
36	3	外車輪 293				其他の部				19 457				計 3,584					
計	739	軸 504				其他の部				計 99				計 3,584					
小形平鋼				ボルトナット 34				綯中鋼板				輕軌條				計 880			
mm				ベッ 45				mm				K 1,444				其他計 1,143			
12	236	ナット 4				3 6				6 9				鋼材總計 88,016					
16	213	計 880				3.2 13				9 637									
19	121	其他計 1,143				4.5 79				10 615									
22	48	鋼材總計 88,016				5 1				12 376									
25	13					計 99				15 512									
26	2					計 3,584													
28	9																		
30	2																		
32	92																		
36	3																		
計	739																		

昭和8年10月中發表各種鋼材先物建値表

所屬別	區分 種類	外注値段			建値 月日	積 月				備 考
		沖着	爲替	河岸着		11、12 月積	12月積	12、1 月積	月積	
關東鋼材	丸鋼 { 9mm 50mm-100mm ベ - ス	£6-1-6 5-11-0 5-8-0	1/2-1/8 " 1/2-3/8	128'72 119'93 115'87	10'12 " 10'28	円 90	円	円 86 105	円	3圓上げ " "
製鐵所	角鋼 平大溝 鋼型 製鐵所 山形 山形 鋼 鋼 時寸法 耗寸法	£5-10-0 " 5-8-0 5-2-6 5-15-0 5-5-6	1/2-1/8 " " " " "	119'10 " 117'43 112'83 123'28 115'34	10'7 " " " " "			106 106 105 101 114 101		2圓上げ " " " " " "
中型山形共販	中型山形 { 等 邊 不 等 邊	5-8-0	1/2-1/8	117'43	10'9			94 95		4圓上げ "
小型山形共販	小型山形 { 3×20mm 3×25mm-5×30mm 5×40mm-6×45mm	6-19-3 6-5-0 6-0-3	1/2-3/8 " "	143'19 131'32 127'36	10'16 " "			108 100 95		5圓上げ " "
厚板共販	厚板 { 耳定 付尺	6-15-0	1/2-1/8	140'00	10'23			110 118		2圓上げ "
中板共販	中板 { 1'6mm 2'3mm 3'2mm 4'5mm	7-1-3 6-16-6 7-12-0 7-0-0	1/2-1/8 " " "	152'08 148'11 154'23 144'19	10'9 " " "			142 137 132 124		2圓上げ " 4圓上げ "
常盤會	黑薄板 { 13枚物 6呎 7呎 8呎 輸出向 { 13枚物 6呎 7呎 8呎	12-15-0 12-10-0 12-15-0 12-10-0	1/2-3/8 " " "	231'31 216'78 193'34 180'62	10'25 " " "	165 165 170 170 160 160 165 165				7圓上げ " " " 10圓上げ " " "
	黑厚板 { 12枚物 11" 10" 9" 8" 7" 6" 5" 4" 3"	11-10-0 11-5-0 10-12-6 10-7-6 9-15-0 9-5-0 8-17-6 8-15-0 8-1-6 7-19-0	1/2-3/8 " " " " " " " " "	234'86 229'89 219'49 215'33 204'92 196'56 190'35 176'63 165'39 163'32	10'25 " " " " " " " " "	163 162 161 156 155 154 153 149 148 147				7圓上げ " " 5圓上げ " " 3圓上げ "
線材共販	線材 { 內地輸向	6-12-6 "	1/2-3/8 "	134'30 112'62	10'19 "	120 105				2圓上げ 据置
製鐵所	鉾力板 { 170lbs 100 珪素鋼板 { B-級 C-級 D-級 T-級 (函入) 美裝鋼板 { #18以下 { 鴛印 鴛印 鴛印 1'6mm以上 { 鴛印 鋼板 { 鴛印 鋼板 { 鴛印 ス ヲ ッ プ 用 鋼 板 重軌條 { 繼目板共 輕軌條 { 10哩未滿 10哩以上	1-15-4 1/2 0-18-6 1/2 21-2-6 27-11-6 " " " 7-8-0 8-17-0 " "	1/2-1/8 " 1/2-1/8 " " " " 1/2-1/8 1/2-1/8 " "	31'81 16'76 365'63 474'89 " " " 150'87 182'48 " "	10'18 " 10'12 " " 10'11 " " 10'11 10'10 10'14 9'19 2'8	27'00 14'60 305 325 345 420 發表せず mm 4'3 140 6'3 137				据置 " " " " 鴛番物値下げ 10圓上げ 3圓上げ 次回三軌會迄 150圓 据置(115圓) 次回迄 (113圓) 次回會議迄 155圓